

2024年 3月期 第2四半期 決算説明会資料



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



2023
健康経営優良法人
Health and productivity



2016
攻めのIT経営銘柄
Competitive IT Strategy Company

平成27年度
地球温暖化防止活動環境大臣表彰



Minister of the Environment
対策活動実践・普及部門



株式会社エフピコ
2023年 11月1日

本資料取扱のご注意

掲載する情報につきまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

◆ 実績 及び 計画	専務取締役経理財務本部本部長 池上 功	4
◆ 企業価値拡大へ向けて			
	代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表 佐藤 守正	11
◆ 添付資料		71

2024年3月期 第2四半期 決算概要

専務取締役 経理財務本部本部長
池上 功

決算概要

(2024年3月期 第2四半期累計実績)

単位:百万円	上期 実績							上期 計画			通期 期初計画		
	2023年3月期		2024年3月期					2024年3月期			2024年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	増減	前年比	数量	計画	構成比	計画比	計画	構成比	進捗率
トレー	19,785	19.3	20,640	19.0	+854	104.3%	98.3%	21,500	19.5	96.0%	43,600	19.7	47.3%
弁当・惣菜	58,691	57.2	62,860	57.8	+4,169	107.1%	99.0%	64,100	58.3	98.1%	128,000	57.8	49.1%
小計	78,477	76.5	83,501	76.8	+5,024	106.4%	98.8%	85,600	77.8	97.5%	171,600	77.5	48.7%
その他製品	1,964	1.9	1,980	1.8	+15	100.8%		1,950	1.8	101.6%	3,900	1.8	50.8%
製品売上高	80,442	78.4	85,482	78.6	+5,040	106.3%		87,550	79.6	97.6%	175,500	79.3	48.7%
包装資材	21,127	20.6	22,014	20.2	+886	104.2%		21,450	19.5	102.6%	43,700	19.7	50.4%
その他商品	992	1.0	1,229	1.1	+237	123.9%		1,000	0.9	123.0%	2,100	0.9	58.6%
商品売上高	22,119	21.6	23,244	21.4	+1,124	105.1%		22,450	20.4	103.5%	45,800	20.7	50.8%
売上高	102,562	100.0	108,726	100.0	+6,164	106.0%		110,000	100.0	98.8%	221,300	100.0	49.1%
営業利益	6,072	5.9	6,981	6.4	+909	115.0%		6,250	5.7	111.7%	17,350	7.8	40.2%
経常利益	6,409	6.2	7,235	6.7	+825	112.9%		6,600	6.0	109.6%	18,000	8.1	40.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,131	4.0	5,122	4.7	+991	124.0%		4,345	4.0	117.9%	11,808	5.3	43.4%
償却前経常利益	13,437		14,816		+1,378	110.3%		14,180	104.5%		33,200	44.6%	

過去最高
売上高
9期連続増収

◇販売

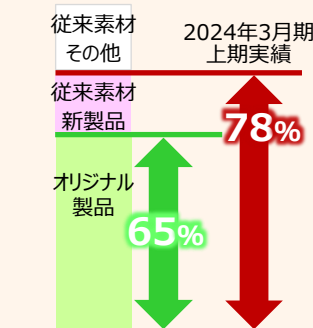
製品>

- ・工口製品や惣菜向けなど付加価値の高い製品の販売が堅調
- ・第二次製品価格改定(2022年4月公表)による増収効果
- ・物価上昇を背景としたスーパーにおける買い上げ点数減少の影響
製品枚数上期：98.8%（9月単月：100.6%）

商品>

- ・価格改定の浸透
- ・当社グループのインフラを活用した効率化提案
- ・ECサイト「バックマーケット」を通じた販路の拡大

◇製品売上構成比

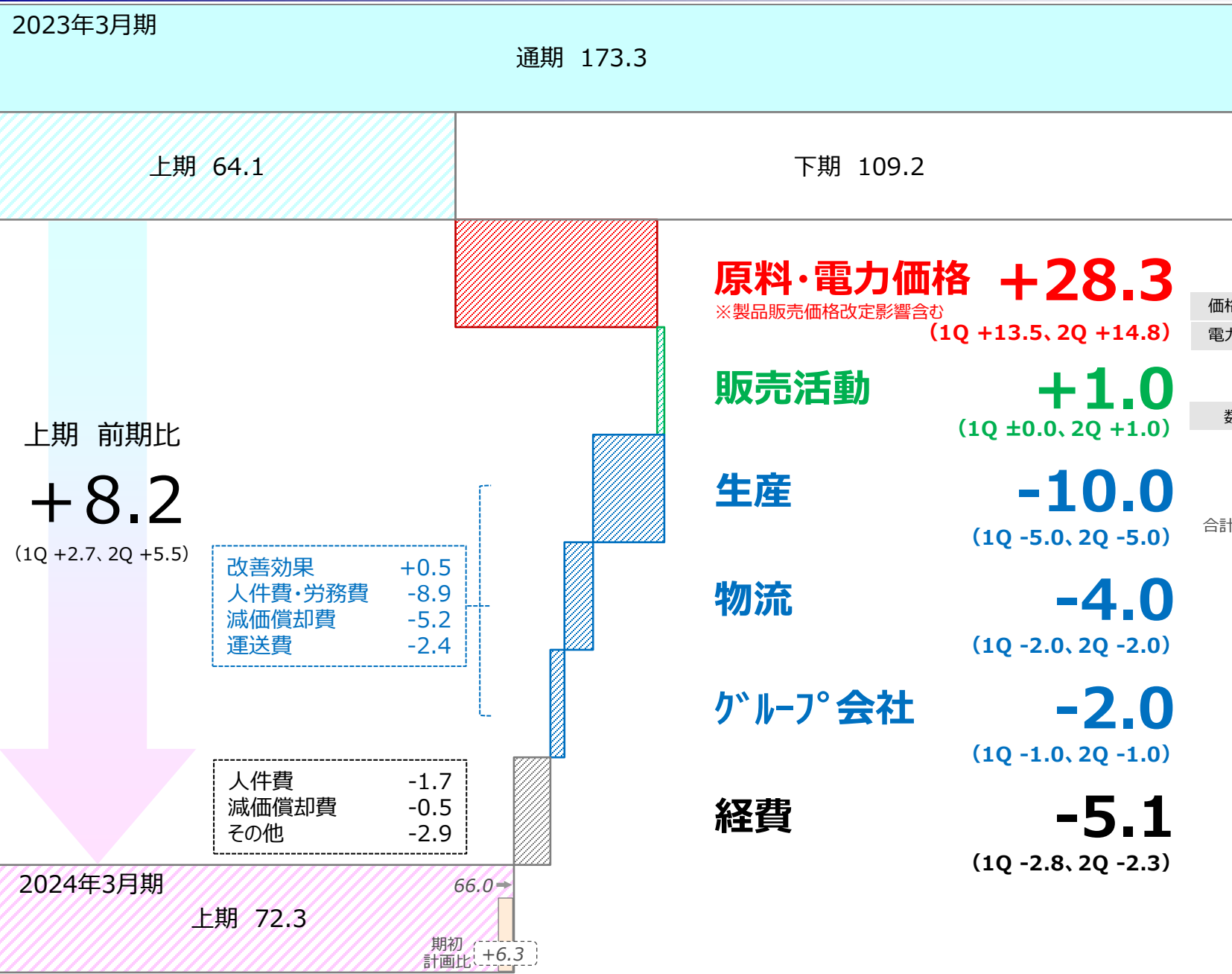


◇実績前年比

	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	下期 計画	通期 計画
製品売上高	108.7%	104.0%	106.3%	102.7%	105.7%
製品枚数	98.4%	99.2%	98.8%	104.0%	102.5%
経常利益	109.1%	116.2%	112.9%	104.4%	103.9%
経常利益率	6.1%	7.2%	6.7%	10.2%	8.1%

経常利益 利益増減実績 (2024年3月期 第2四半期累計)

単位：億円



原料・電力価格 +28.3

※製品販売価格改定影響含む
(1Q +13.5、2Q +14.8)

販売活動 +1.0

(1Q ±0.0、2Q +1.0)

生産 -10.0

(1Q -5.0、2Q -5.0)

物流 -4.0

(1Q -2.0、2Q -2.0)

グループ会社 -2.0

(1Q -1.0、2Q -1.0)

経費 -5.1

(1Q -2.8、2Q -2.3)

期初
計画比

+8.3

価格改定効果の維持
電力価格のピークアウト

-2.0

数量伸長の遅れ

合計 +6.3

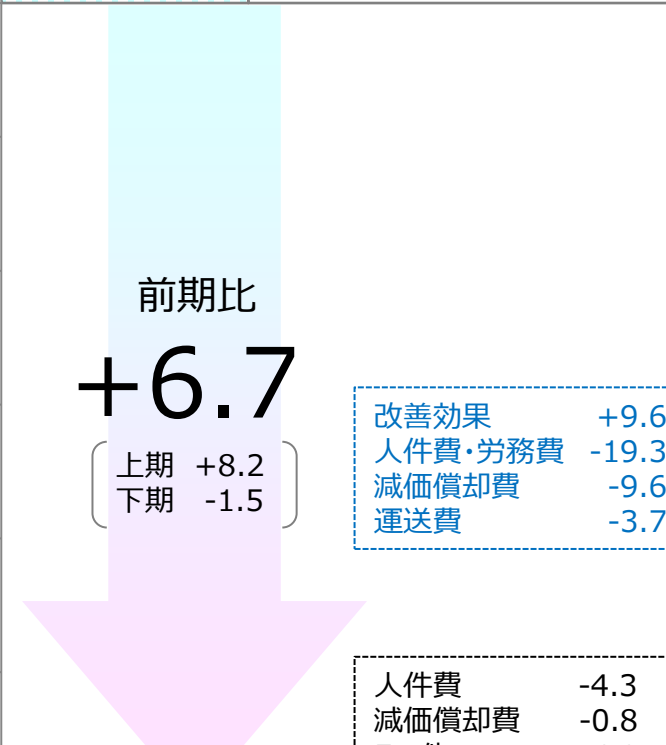
期初
計画比 +6.3

経常利益 利益増減 見通し (2024年3月期計画)

第2四半期時点

単位：億円

2023年3月期 通期 173.3	
上期 64.1	下期 109.2



2024年3月期	
上期 72.3 期初計画比 +6.3	下期見通し 107.7 期初計画比 -6.3

通期見通し 180.0

原料・電力価格 +31.0 ※製品販売価格改定影響含む (上期 +28.3、下期 +2.7)
販売活動 +10.0 (上期 +1.0、下期 +9.0)
生産 -13.0 (上期 -10.0、下期 -3.0)
物流 -7.0 (上期 -4.0、下期 -3.0)
グループ会社 -3.0 (上期 -2.0、下期 -1.0)
経費 -11.3 (上期 -5.1、下期 -6.2)

期初計画比	上期差異	下期見通し変更	通期
	+8.3	+2.7	+11.0
価格改定効果の維持 電力価格のピークアウト		再生PET原料の値下がり 電力価格のピークアウト	
	-2.0	-6.0	-8.0
数量伸長の遅れ		9月を境に対前年比 数量増加トレンドへ 計画比で数量伸長に遅れ	
	±0.0	-3.0	-3.0
		計画比で数量伸長に遅れ	
合計	+6.3	-6.3	±0.0

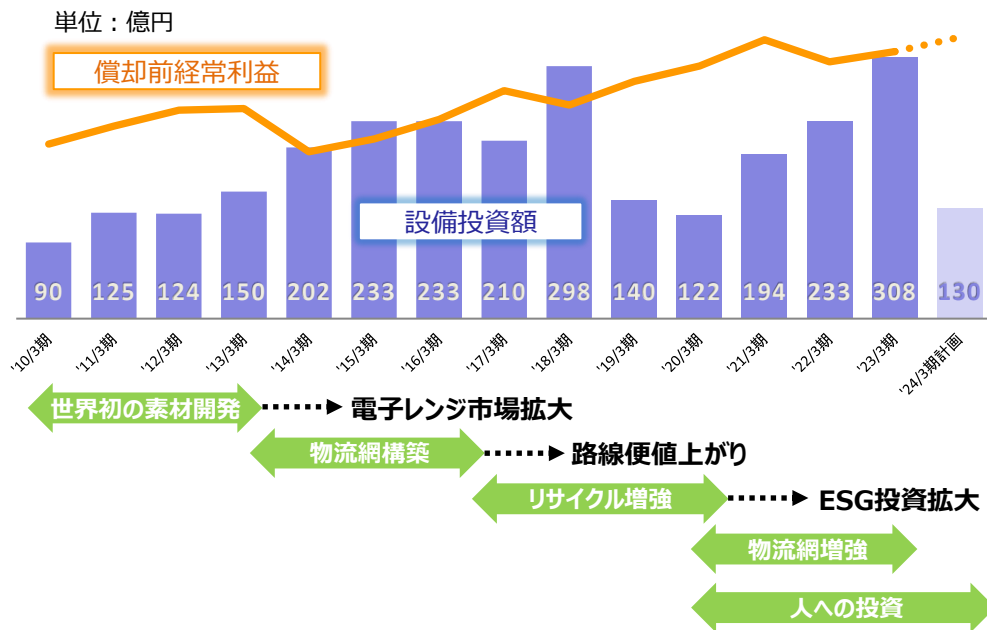
設備投資・研究開発費 (2024年3月期 第2四半期累計実績)

	上期 実績				上期 計画		通期 計画	
	2023年3月期 実績	2024年3月期			2024年3月期		2024年3月期	
単位:百万円	実績	実績	増減	前年比	計画	計画比	計画	進捗率
有形固定資産	20,593	3,305	△17,287	16.1%	5,000	66.1%	12,500	26.4%
無形固定資産	276	174	△101	63.2%	200	87.2%	500	34.9%
設備投資	20,869	3,479	△17,389	16.7%	5,200	66.9%	13,000	26.8%
減価償却費	7,027	7,580	+552	107.9%	7,580	100.0%	15,200	49.9%
研究開発費	613	640	+26	104.3%	744	86.1%	1,506	42.5%

検収時期のずれ

【主な設備投資】

	単位:百万円	投資総額	2024年3月期 計画	上期実績
オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上				
◆ エコAPET原料 生産性向上(関東・中部)		547	547	160
◆ エコAPET原料 生産能力増強(NPR)		455	455	10
◆ エコAPET製品 生産能力増強		240	240	68
販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備				
◆ 自動化設備の導入			294	64
◆ 従来素材製品能力増強		1,777	1,579	489
◆ 関西選別センター	2024年 9月 完成予定	944	391	30
◆ グループ会社生産拠点の増強 ダンボール工場増床	2024年 8月 完成予定	3,527	986	207
◆ 金型			1,785	778
◆ IT投資			720	249



貸借対照表

(2024年3月期 第2四半期累計実績)

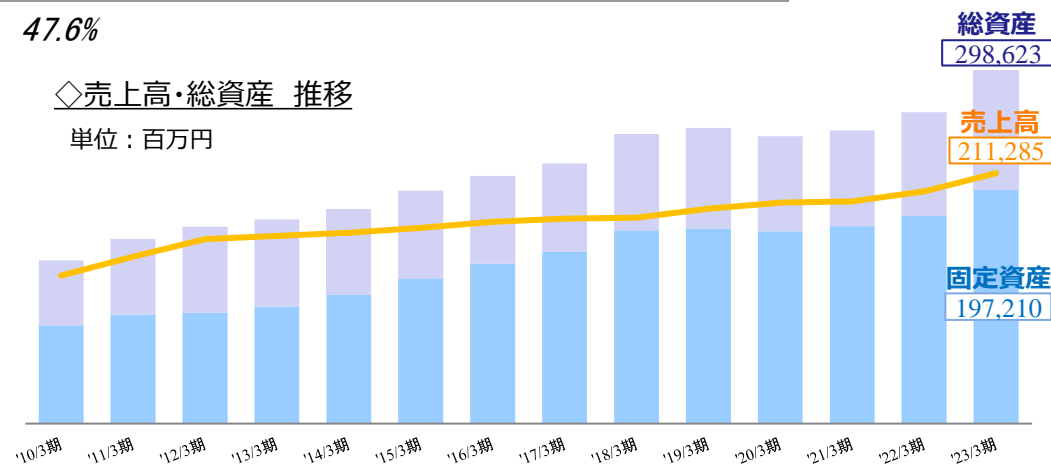
単位:百万円	前連結会計年度	当第2四半期連結会計期間				
	2023年3月期 2023/3/31	2023/9/30	増減	2024年3月期 前年比	主な増減内訳	
流動資産	101,413	104,866	+3,453	103.4%	受取手形及び売掛金 +5,891	
固定資産	197,210	195,160	△2,049	99.0%	建物及び構築物(純額) △2,465 機械装置及び運搬具(純額) △1,879 のれん +1,507	
資産合計	298,623	300,027	+1,403	100.5%		
流動負債	83,883	86,616	+2,732	103.3%	支払手形及び買掛金 +3,948	
固定負債	74,568	69,876	△4,692	93.7%	長期借入金 △4,782	
負債合計	158,452	156,492	△1,959	98.8%		
純資産合計	140,171	143,534	+3,363	102.4%	利益剰余金 +3,035	
負債純資産合計	298,623	300,027	+1,403	100.5%		

自己資本比率 47.6%

- 資産 オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
取引先への効率化提案に向けたインフラの活用
- 負債 戦略投資の原資として借入金の活用
- 純資産 経営体質の充実強化
事業拡大に向けた機動的な対応への備え

◇売上高・総資産 推移

単位:百万円



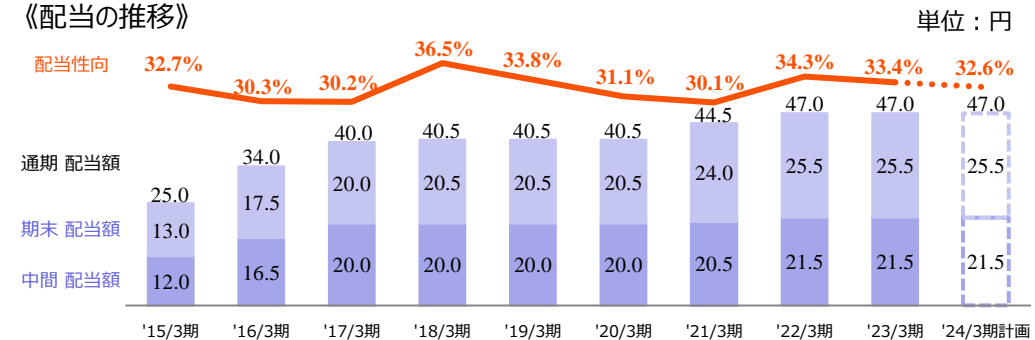
キャッシュ・フロー

(2024年3月期 第2四半期累計実績)

単位:百万円	上期	
	2023年3月期 実績	2024年3月期 主な内訳
営業活動によるC/F	6,785	実績 14,021 税金等調整前四半期純利益 7,509 減価償却費 7,580 売上債権の増減額(△は増加) △ 5,877 仕入債務の増減額 2,732
投資活動によるC/F	△ 19,615	実績 △ 6,912 有形固定資産の取得 △ 7,064
フリーキャッシュフロー	△ 12,829	7,109
財務活動によるC/F	22,468	実績 △ 7,162 長期借入れによる収入 3,000 長期借入金の返済 △ 7,441 リース債務の返済 △ 600 配当金の支払額 △ 2,086
現金及び現金同等物の増減額	9,638	△ 52
現金及び現金同等物の期末残高	29,383	22,202

- 営業CF オリジナル製品販売と合理化による利益確保
- 投資CF 収益基盤構築に向けた戦略投資を実施
製品・サービスの拡充、物流インフラの活用に向けたM&A
- 財務CF 継続的かつ安定的な配当の実施
財務の健全性、戦略投資、株価水準等を勘案し、
機動的・柔軟な還元を検討

《配当の推移》



※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2015年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、配当金額を記載しております。

企業価値拡大へ向けて

代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表

佐藤 守正



株式会社 **エフピコ**

- **マーケットの状況**
- **エコ戦略**
- **戦略投資/安定供給**
- **成長戦略**

マーケットの状況



小売動向

出所：一般社団法人日本スーパーマーケット協会（既存店、売上前年比）

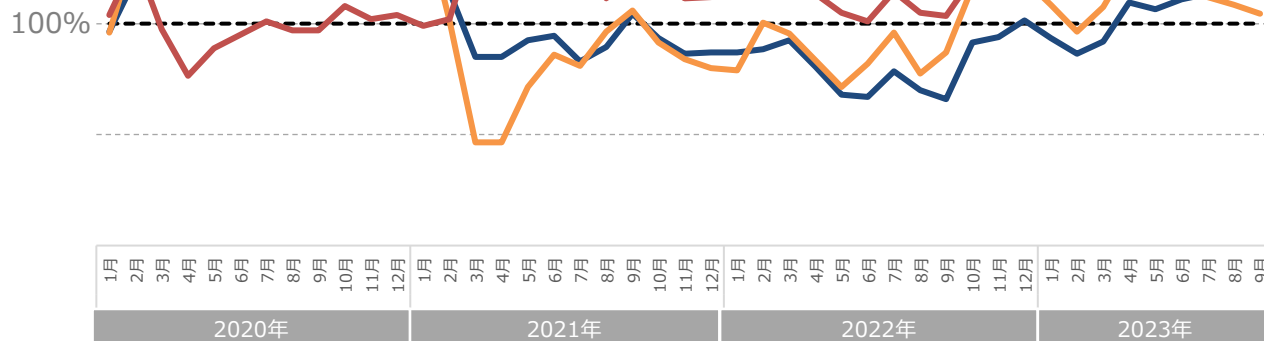
出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（既存店、前年比）

スーパーマーケット

水産

畜産

惣菜



水産

- 燃料費の高騰
- 漁獲量の減少

畜産

- 精肉全般で相場高が継続

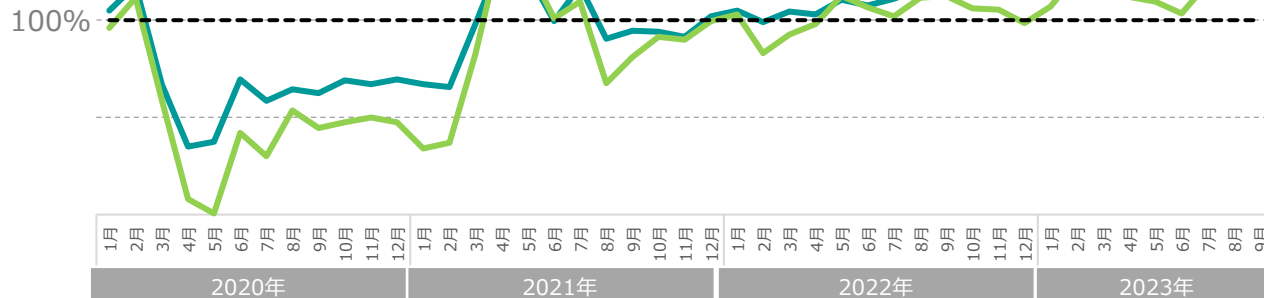
惣菜

- 買い上げ点数が維持され、一品単価が上昇
- 行楽需要やイベントの再開により好調

コンビニエンスストア

売上(日配)

客数



売上

- 一品単価上昇
- 来店客数の回復

客数

- リオープンに伴う外出の増加
- イベントの再開により好調

原料価格の高騰

2023年10月時点

2021年3月期

2022年3月期

2023年3月期

2024年3月期

国産ナフサ

(円/KL)

ベンゼン

(\$/トン)

為替

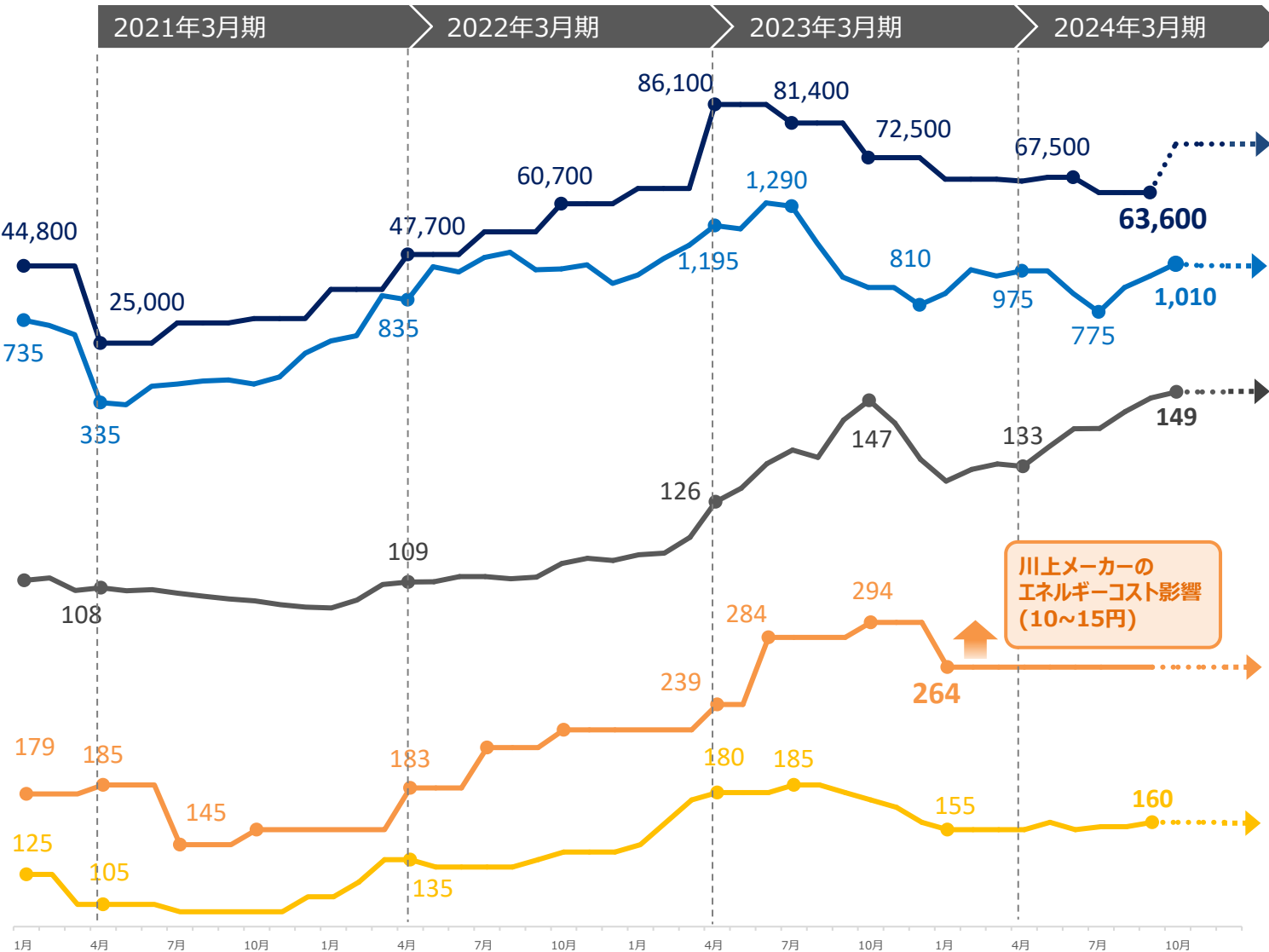
(¥/\$)

国内一般PS

(円/kg)

国内一般PET

(円/kg)



川上メーカーの
エネルギーコスト影響
(10~15円)

電力単価上昇

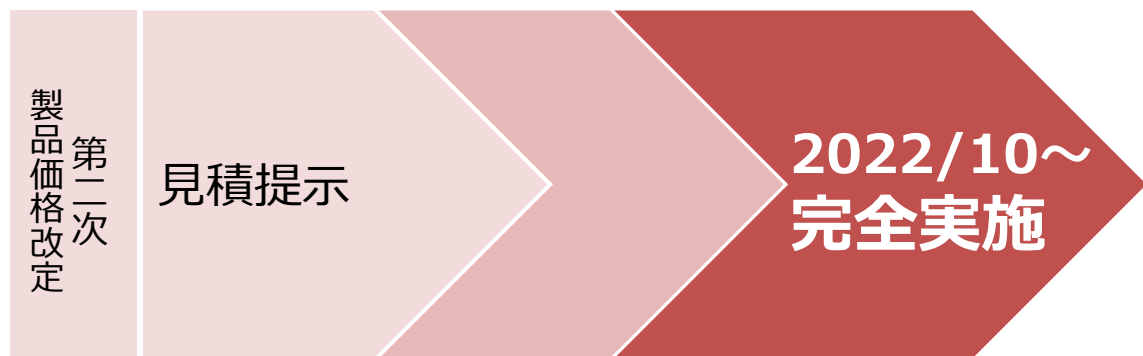
価格改定

2022年3月期		2023年3月期		
3Q	4Q	1Q	2Q	3Q



2021/10/29発表

12/1出荷分より 10%以上

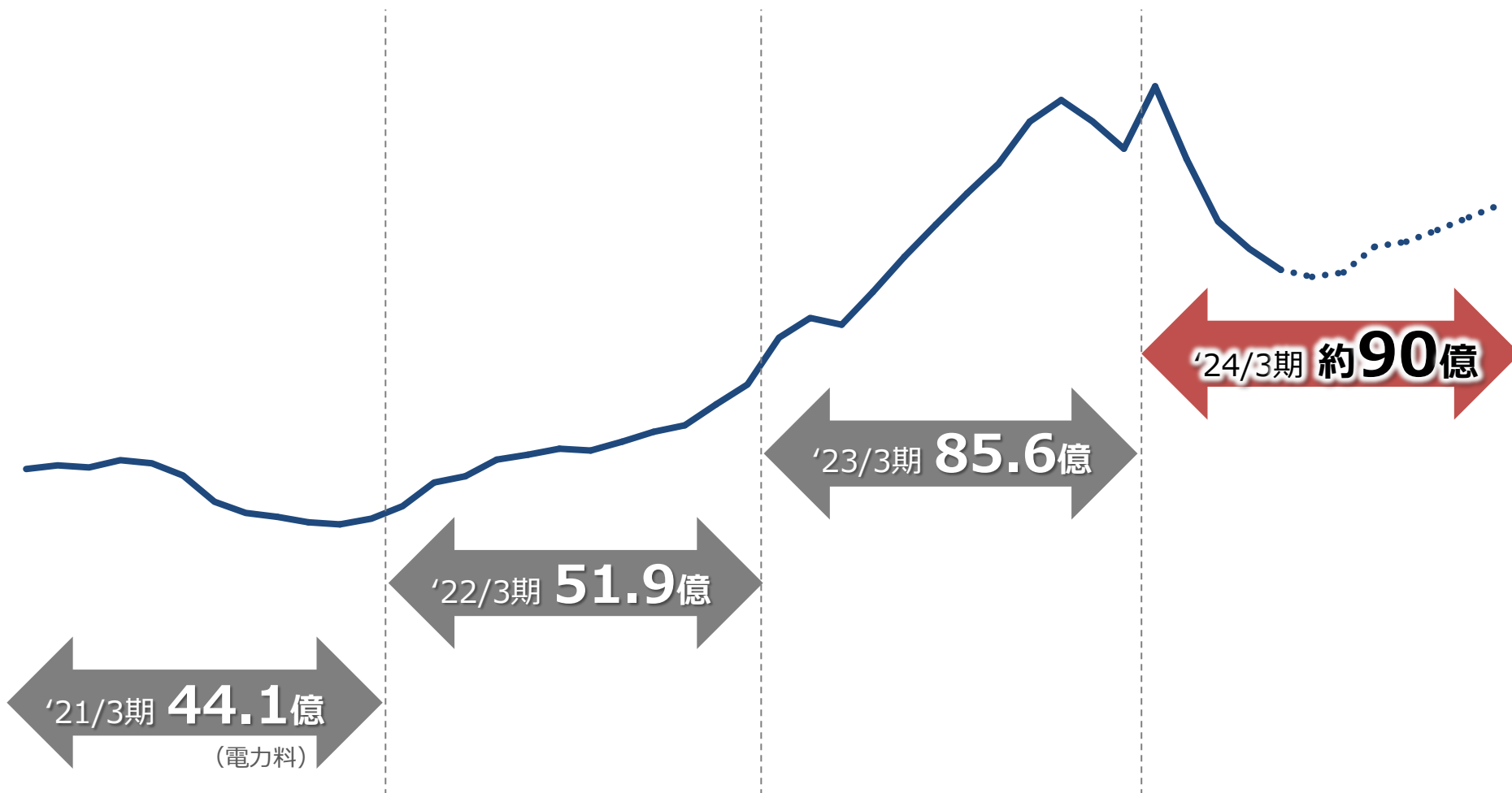


2022/4/28発表

6/1出荷分より 15%以上

電力価格の高騰

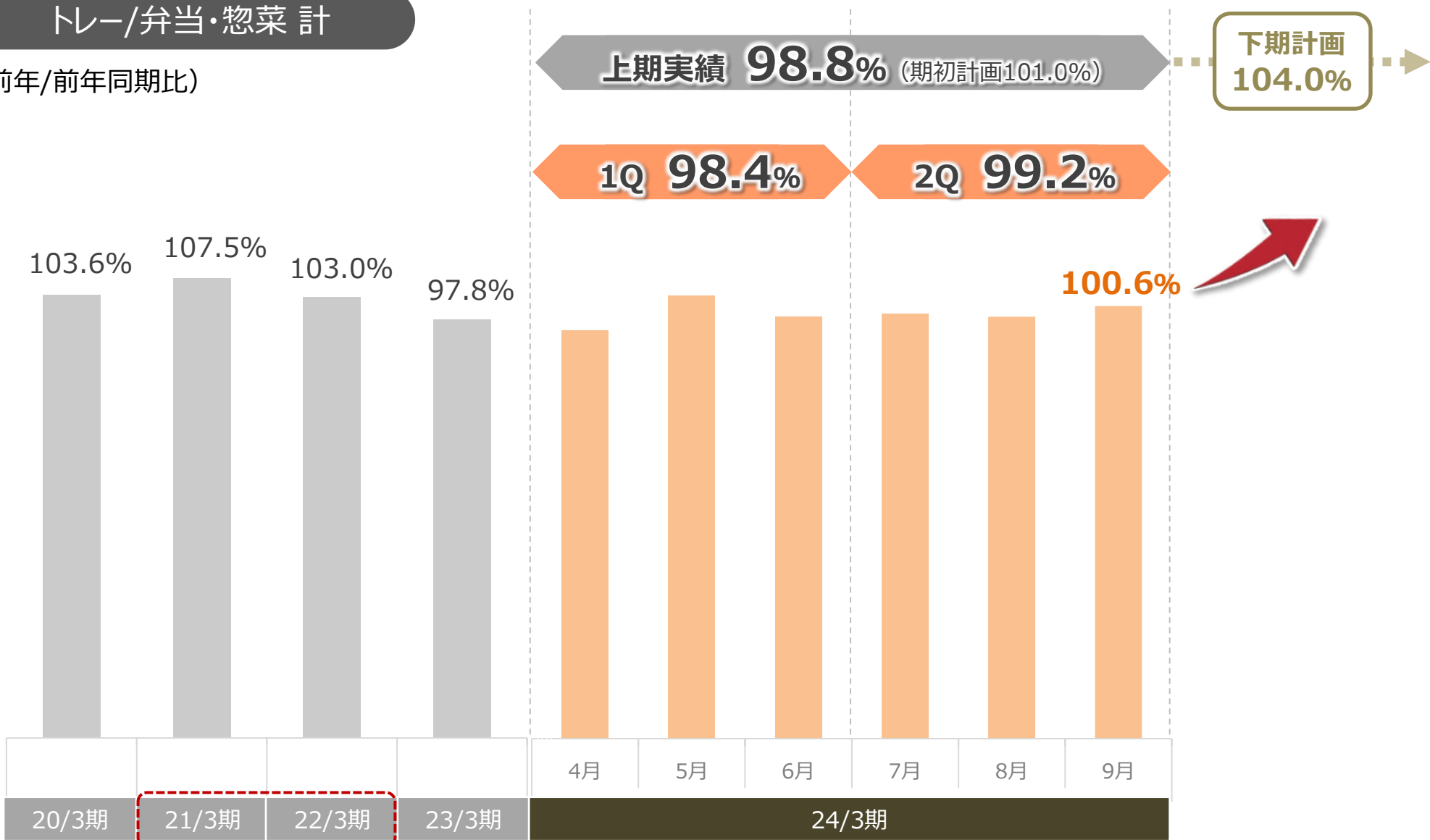
電力単価推移



製品販売数量の推移

トレー/弁当・惣菜 計

(前年/前年同期比)



行動制限

PC / CKへの対応

①自動供給機



②盛付け作業



③ライン適性



④テープ留め作業



⑤ラベル適性



⑥ コンテナ収納アップ

コンテナに合わせた サイズ展開で収納パック数アップ



UT28



1コンテナあたり
6パック
(3パック×2段)



MSD穂高膳



1コンテナあたり
12パック
(4パック×3段)

※標準クレートⅡ型深/内寸高さ126mmの場合

⑦ 輸送適性

1. 汁漏れ抑制

本体・蓋の密着性を高めて
汁漏れを抑制

内嵌合仕様で
本体と蓋が密着！



2. ズレ抑制

枠機能で中身のズレを抑制

山型の突起で
傾けてもズレにくい！



⑥コンテナ収納アップ



⑦輸送適性



ユーザーのオペレーションコスト低減

ツマ削減容器



Sステージ
ツマ **80g**

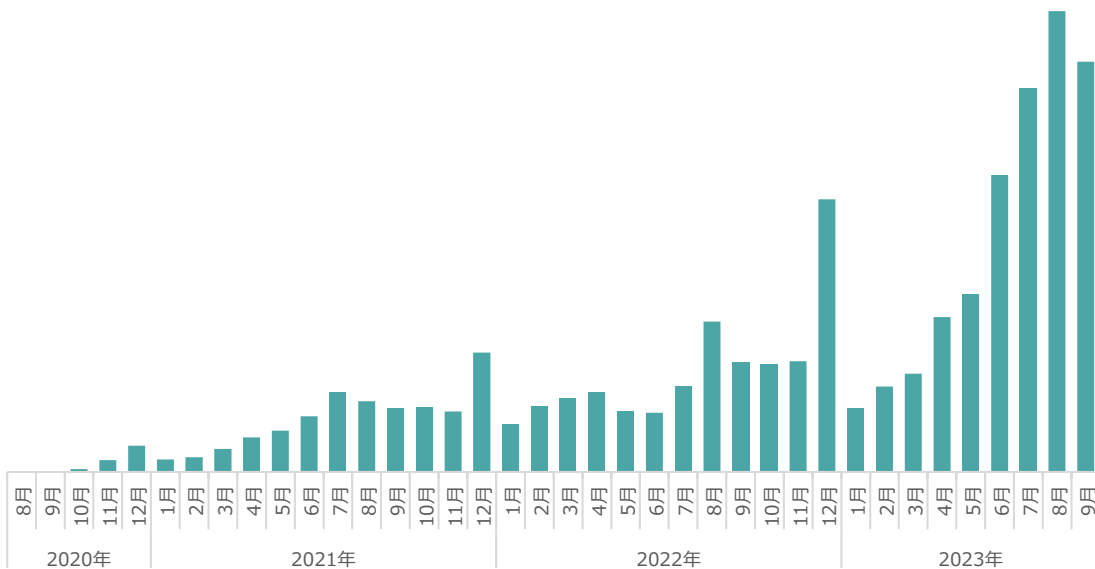


長角鉢TZ

ツマ **0g**



出荷実績推移



① 盛付け時間の短縮



刺身の加工時間/日

8MH → **6MH**

月間約 **800万円** の削減

※関西A社様事例(160店舗)

※MH(人時生産性): 仕事を1人で全て行ったら仮定した場合の作業時間

② ツマ代の削減



月間約 **600万円** の削減

※関西A社様事例(160店舗)

③ 食品ロスの削減



ツマは別売りで対応

プラスチック使用量の削減

祝賀桶 (上市済み)



16サイズ展開

氷河桶 (10月末上市予定)



12サイズ展開

新技術

低発泡
PSPシート × 成形技術

特許出願済み

HIPS (非発泡) に比べて

約**60%**軽量化

新低発泡PSP

HIPS

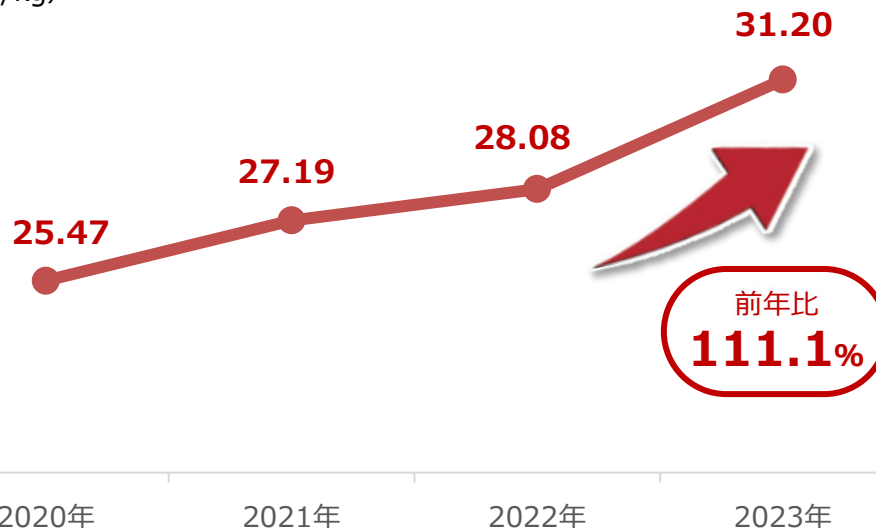


順次、シリーズ展開へ

容器包装リサイクル法 委託金の削減

1kgあたりの委託金の推移 (小売)

(円/kg)



	2020年	2021年	2022年	2023年
A : 算定係数(小売)	0.51655	0.53304	0.52974	0.53799
B : 委託単価(円/kg)	49.00	51.00	53.00	58.00
1kgあたりの委託金 (A×B)	25.47	27.19	28.08	31.20

<算定方法>

再商品化義務量(kg)
(年間使用量×算定係数)

×

委託単価
(円/kg)

=

容器法委託金(円)

軽量化により
容器包装リサイクル法の委託金を削減

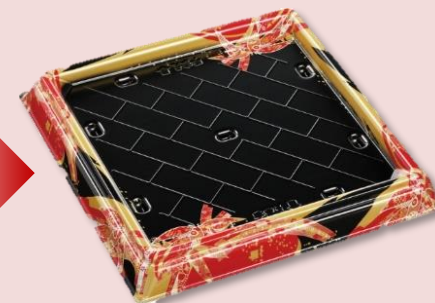
約108万枚の使用で

年間 **87万円**削減



従来品
(HIPS)

切替



軽量化容器
(新低発泡PSP)

冷凍市場拡大

ユーザーで続々と導入実験スタート

冷凍商品に期待される4つの可能性

オペレーション変革



開店までに売り場づくりが間に合う

ロス改善



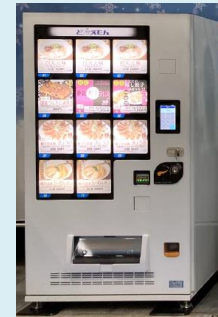
チャンスロス・廃棄ロス等

旬のコントロール



旬を閉じ込めて年間で美味しさを実現

来店から外販へ



閉店後の時間で売上確保

社会背景

2022年売れたもののランキング
セカンド冷凍庫

冷凍技術
の進化

冷凍
自動販売機

冷凍食品 国内生産金額（家庭用）推移

2012年
2,688億円

2022年
4,061億円

10年間で1.5倍に拡大

2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022

規格品だからすぐに始められる 冷凍包装資材

エコPET

耐寒性 冷凍時でも割れにくい

環境配慮 『エコマーク』『ペットボトルリサイクル品』を刻印



マルチFP

耐熱性・耐寒性 -40℃～+110℃対応

断熱性 加熱直後に手で持っても熱くない



耐寒PPi-タルク

強度 耐寒PPと同等

環境配慮 耐寒PPと比較しプラスチック使用量削減



最適な素材

三方袋 規格品上市



熱シール



7サイズ上市

トップシール対応



フラットな容器形状
バケツ適性

最適な包装形態

冷凍惣菜 SMでの開発が続々スタート

スーパーマーケット

ナショナルブランド
NBメーカー

従来の冷凍食品



SMのPC/CK
での実験スタート

2023年春頃

2023年秋頃

取り組みやすい**生鮮**から着手

惣菜の開発スタート



オリジナリティが出せる

フードロス削減

温めて食べる出来立て感

各地で冷凍惣菜の販売スタート

中四国ユーザー様



近畿ユーザー様



耐寒PPi-タルク出荷実績

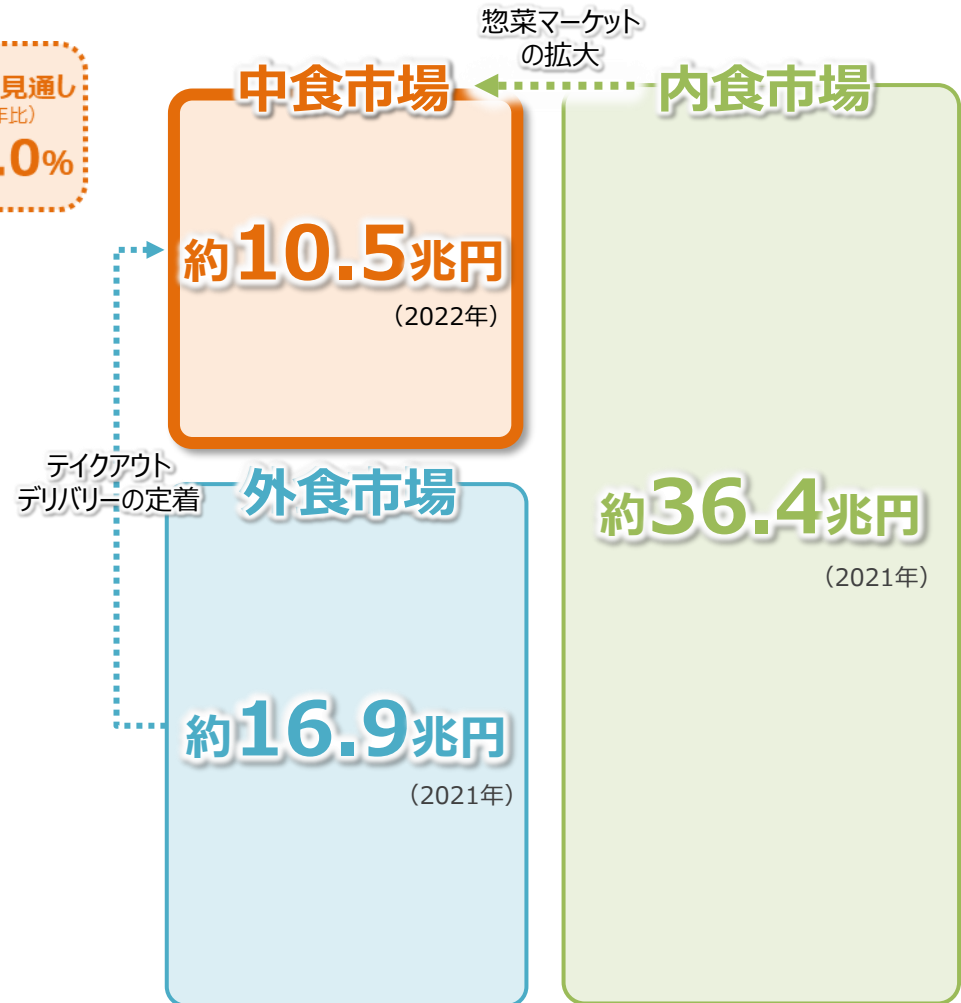
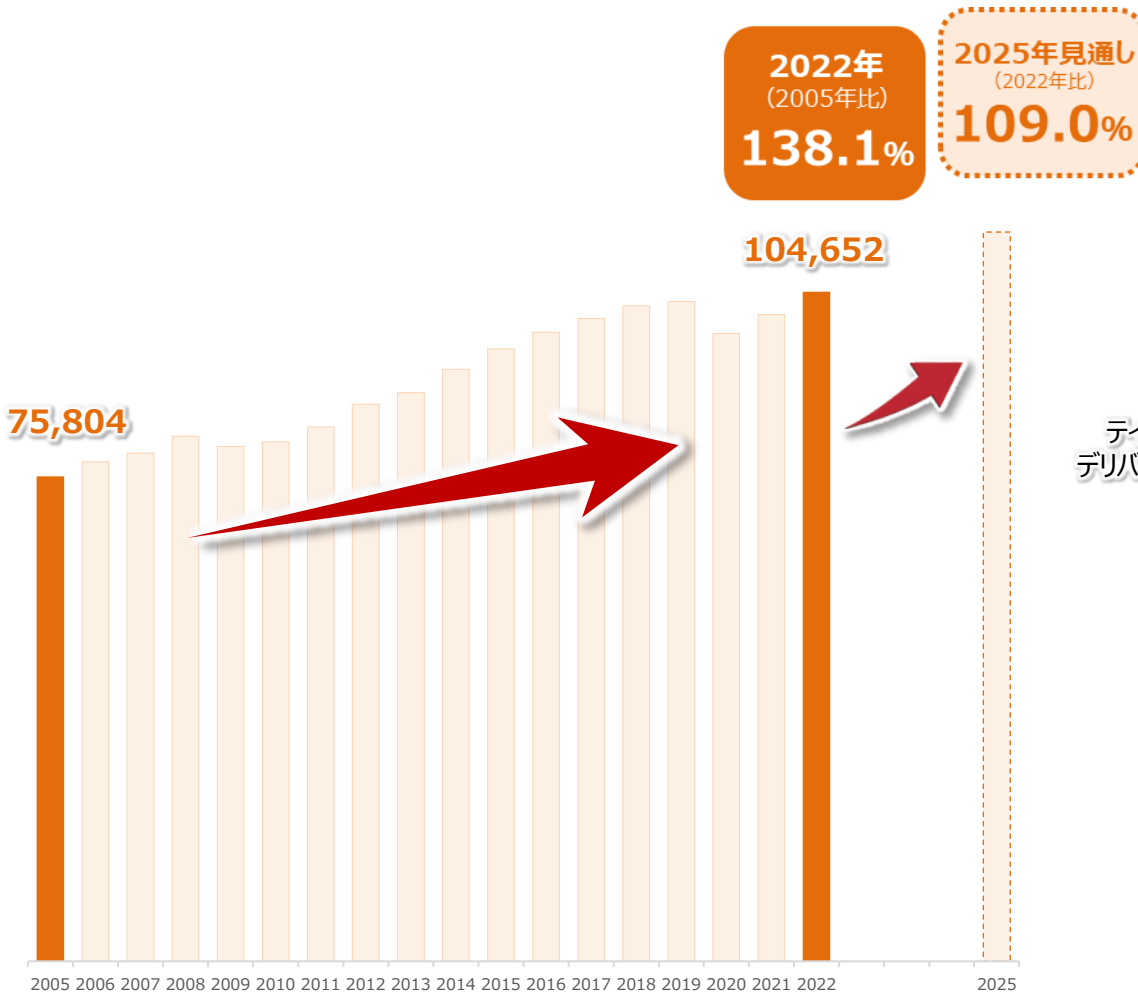


中食市場の拡大

出典：一般財団法人 日本惣菜協会「2023年版惣菜白書」

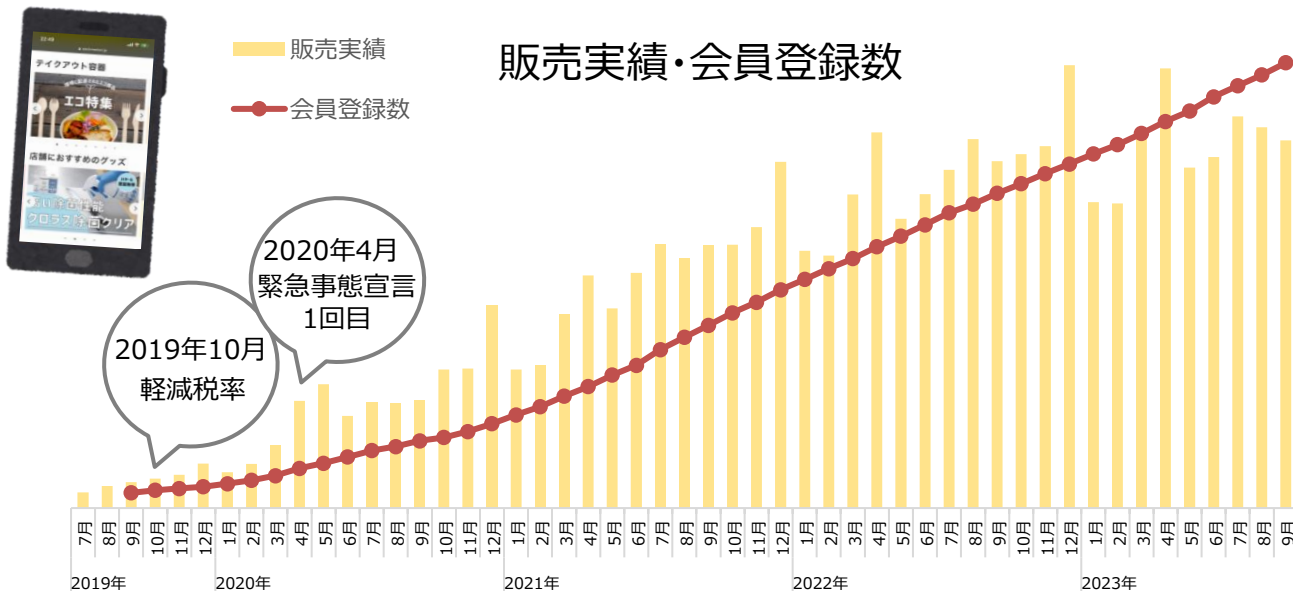
中食市場規模推移

(単位：億円)



新たな販路拡大

包装資材のECサイト「PackMarket」



月間売上 約**1.2**億円
登録 約**14,600**アイテム
うち、製品 約**9,100**アイテム
(2023年9月末時点)

WEBマーケティング
広告・SEO対策



2022年7月エフピコ商事・エフピコみやこひも合併

エフピコ商事

商品の
マーチャンダイジング
MD力・調達力



エフピコみやこひも

包装資材問屋・ユーザーに対する
販売力

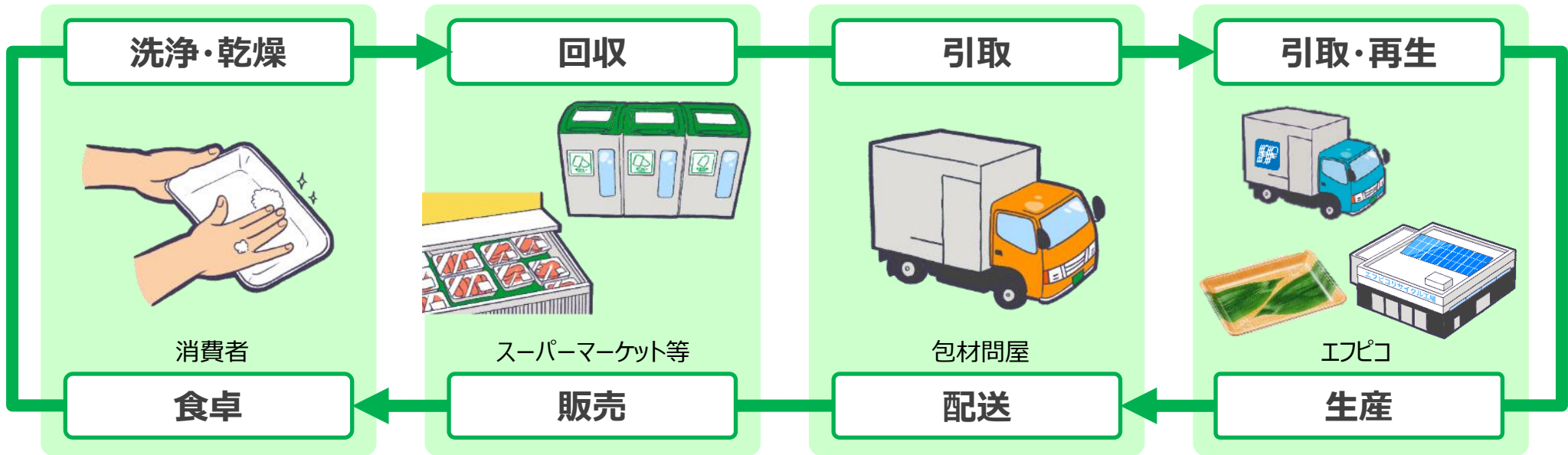


- ・資材消耗品の販売力強化
- ・全国の包装資材問屋との連携強化

エコ戦略



エピコ方式のリサイクル



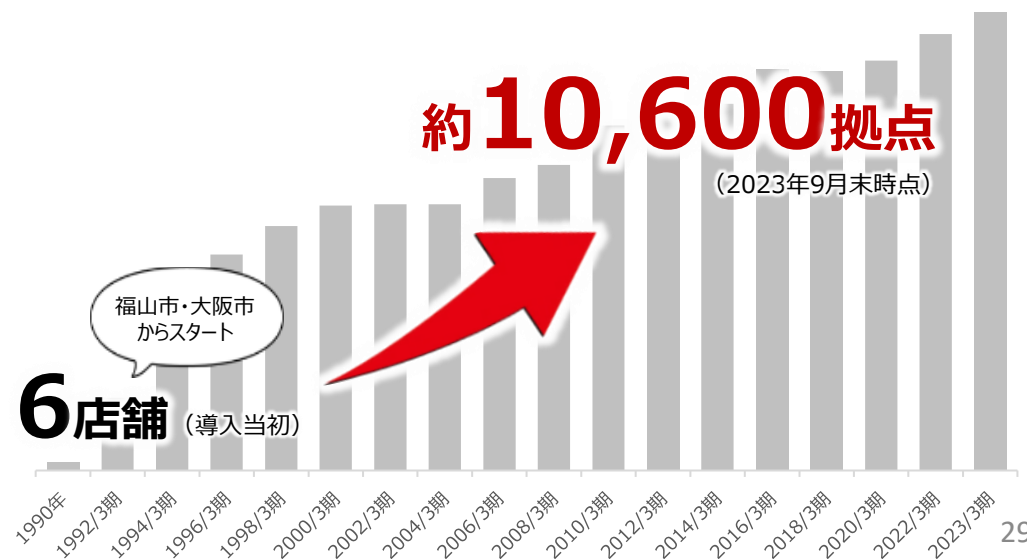
歴史

容器包装から紙包装へ変更

- 1980年 広島ゴミ問題
- 1990年 米国 マクドナルド不買運動
- 1990年 エピコ方式のリサイクル開始
- 1992年 「エコトレー」の販売開始
- 1995年 容器包装リサイクル法制定
- 1997年 京都議定書
- 2008年 透明容器のリサイクル開始
- 2011年 PETボトルのリサイクル開始
- 2012年 「エコPET」の販売開始
- 2015年 パリ協定
- 2021年 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律制定



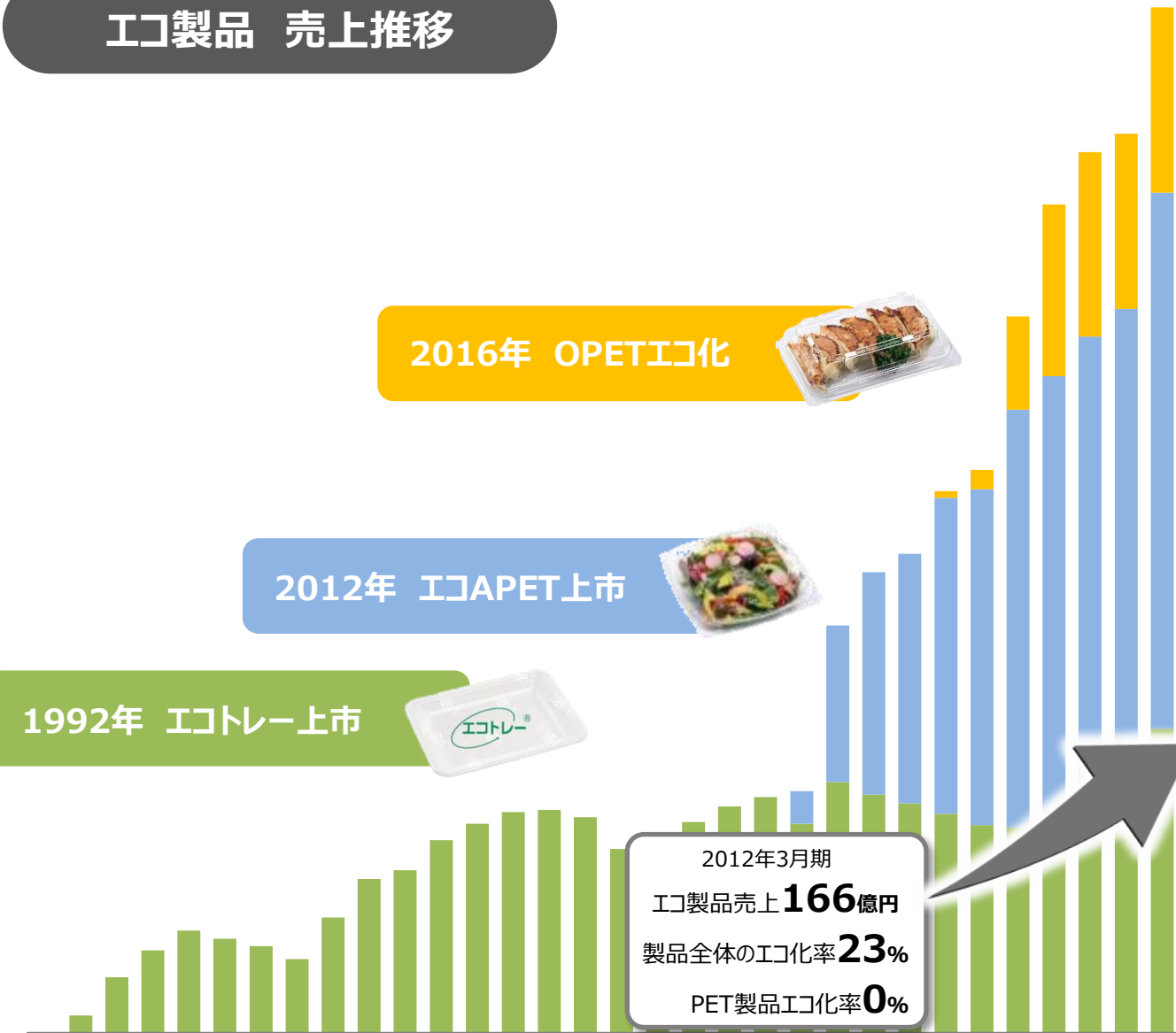
回収拠点数



エコ製品の販売実績



エコ製品 売上推移



2016年 OPETエコ化

2012年 エコAPET上市

1992年 エコトレー上市

2012年3月期
エコ製品売上 **166**億円
製品全体のエコ化率 **23%**
PET製品エコ化率 **0%**

2023年3月期
エコ製品売上

724億円

製品全体のエコ化率
枚数ベース

46%

PET製品エコ化率

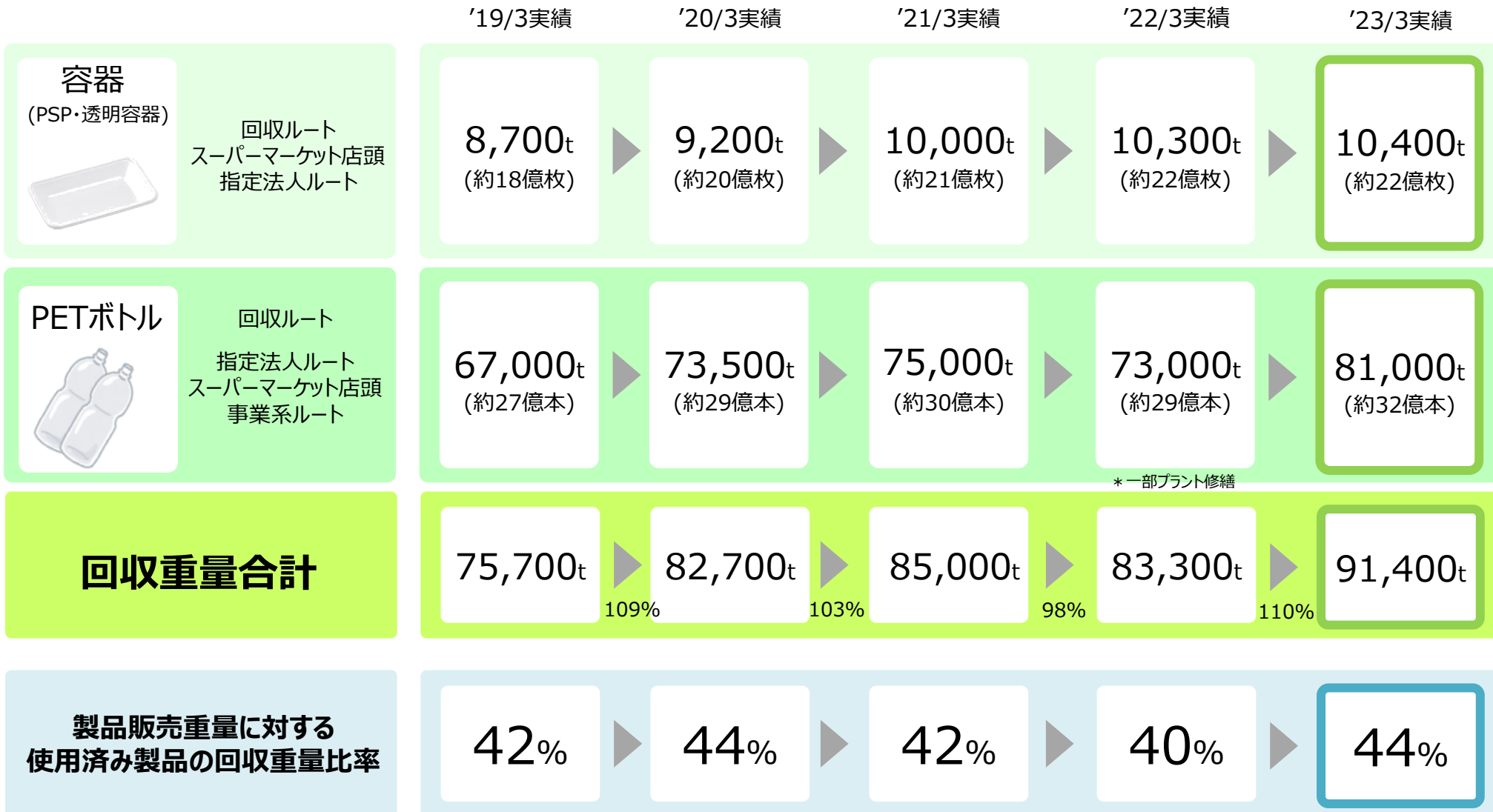
100%

プラスチック資源の回収



※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
 PSP : 4 g、透明容器 : 10 g、PETボトル : 25 g

回収重量



気候変動対応 エコ製品によるCO2排出量の削減



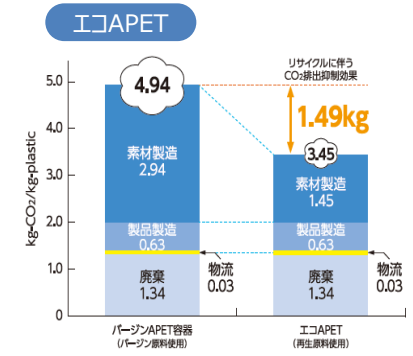
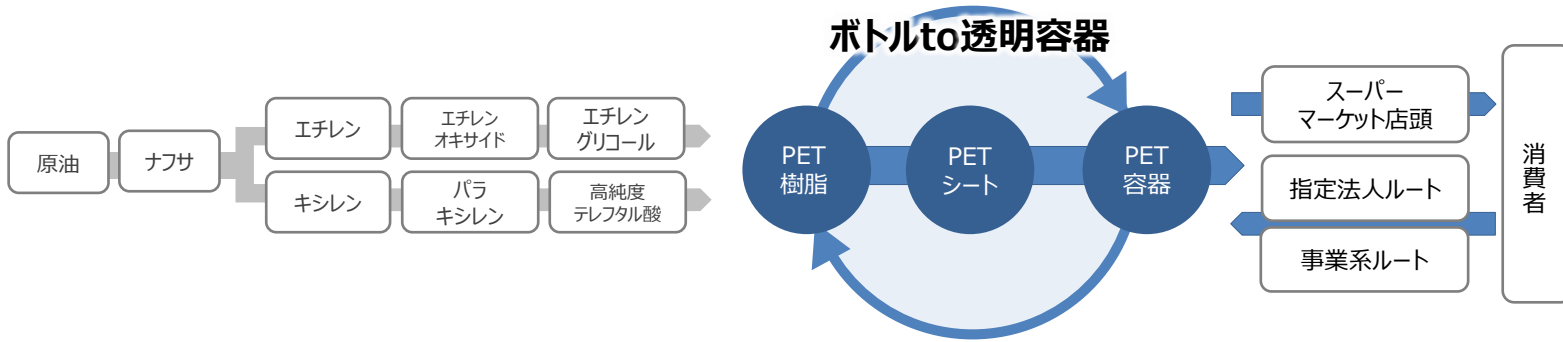
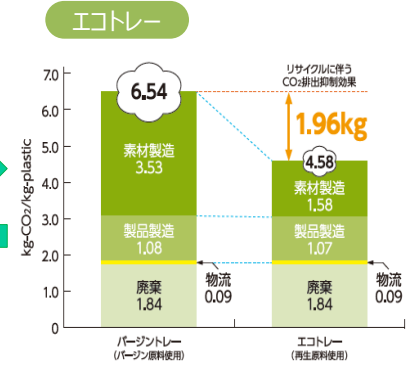
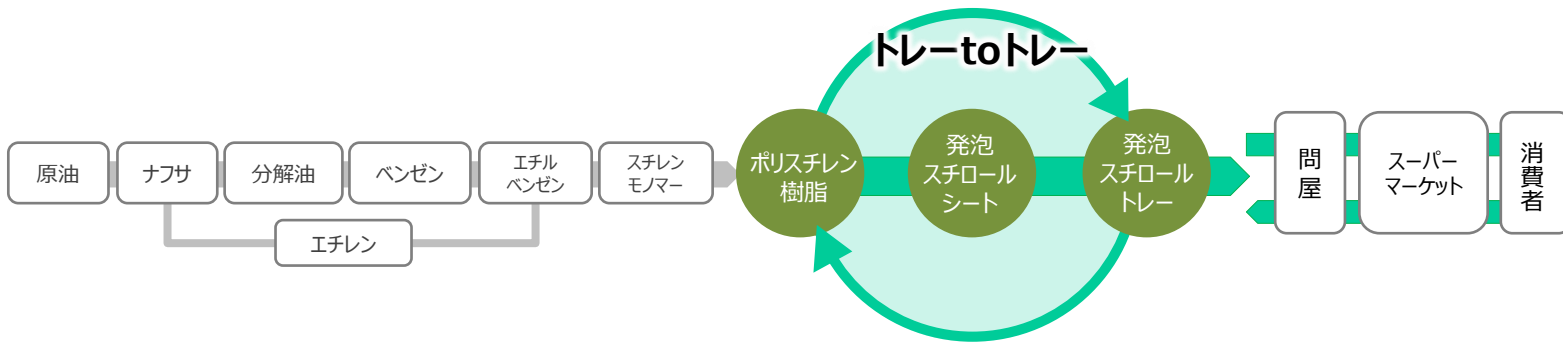
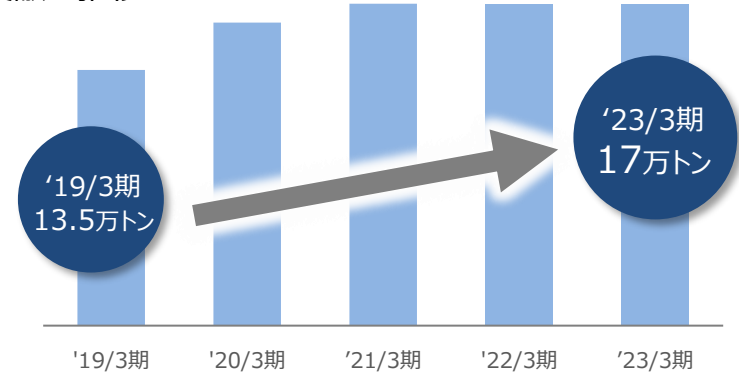
CO2排出量

-30%



CO2排出削減貢献量推移

(単位：トン)



CO₂削減ポスター



イオングループ様 ポスター掲示例

2016年2月期

2023年2月期



7年間でCO₂削減
+約**5,194t**



全国掲示事例

約6,690店舗

(2023年9月末時点)



太陽光発電によるCO2削減効果拡大

太陽光発電設備

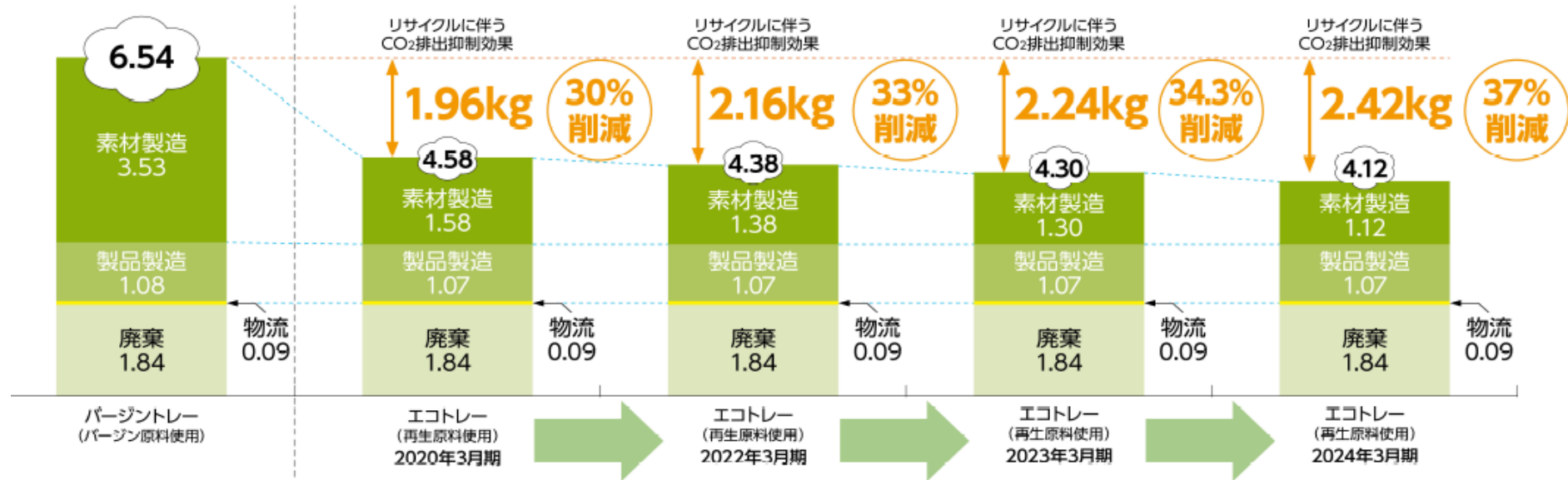
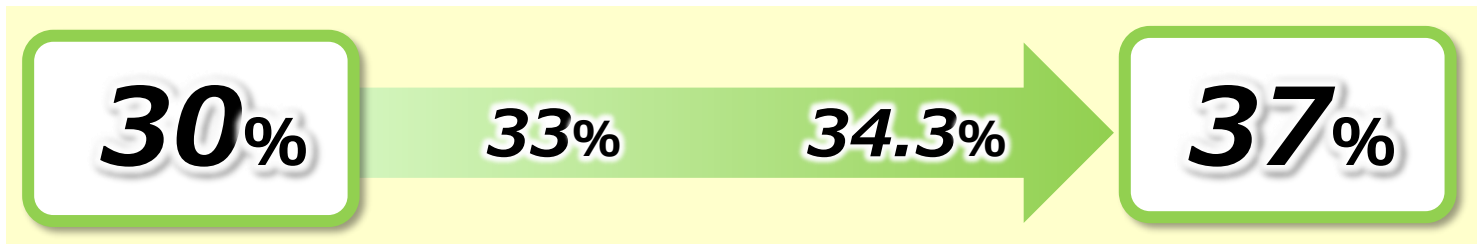
2020年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期

3月 関東リサイクル工場向け稼働開始

10月 中部リサイクル工場向け稼働開始

3月 福山リサイクル工場向け稼働開始予定

CO2削減効果



お店を発着点とした「ストアtoストア」



お店で使用した食品トレー・ペットボトルは
そのお店で資源として回収し、
食品トレー・透明容器に再生して、
またそのお店で積極的に使用する

スーパーマーケット



店舗で回収・販売



トレーtoトレー
ボトルto透明容器

エピコ



リサイクル・容器製造



ユーザーにおける資源回収の強化



各社環境方針（抜粋）

関東A社	発泡トレー店舗回収量：2020年度比1店舗当たり10倍
関東B社	資源リサイクルの強化：透明トレー回収開始、ペットボトル回収強化
東北C社	事業者責任として、容器包装の100%回収を目指す
中四国D社	食品トレーの回収量を2019年度比で50%増加

中国シジシー 共同記者会見 (15社 249店舗加盟)

2022年11月29日実施

回収量 (トレー・ペットボトル)

2021年実績
538t

2023年目標
1,600t

エコ製品の使用による CO2削減量

2021年実績
902t

2023年目標
1,000t

2023年10月30日 リリース

エブリイと水平リサイクルを 促進するための協働を開始

(2024年6月期目標)

使用済みトレー回収量

142t → **150t**

ペットボトル回収量

266t → **300t**

エコ製品の使用によるCO2削減量

691t → **750t**

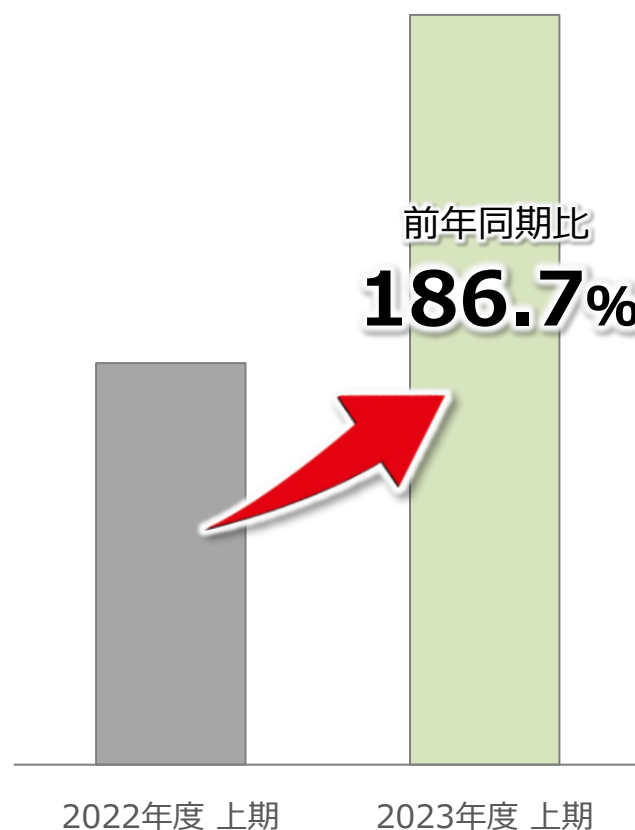
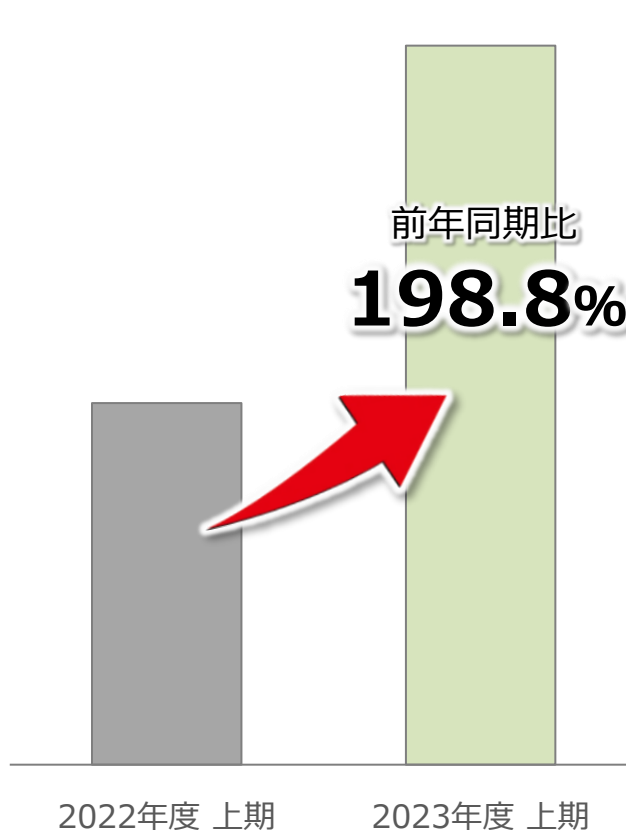
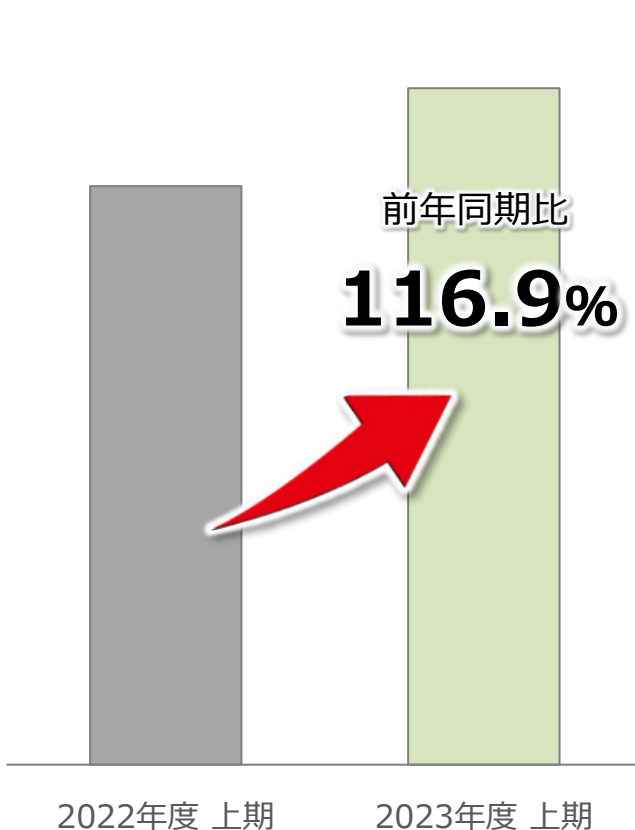
中国シジシー加盟店 フレスタ様における実績



トレー回収量

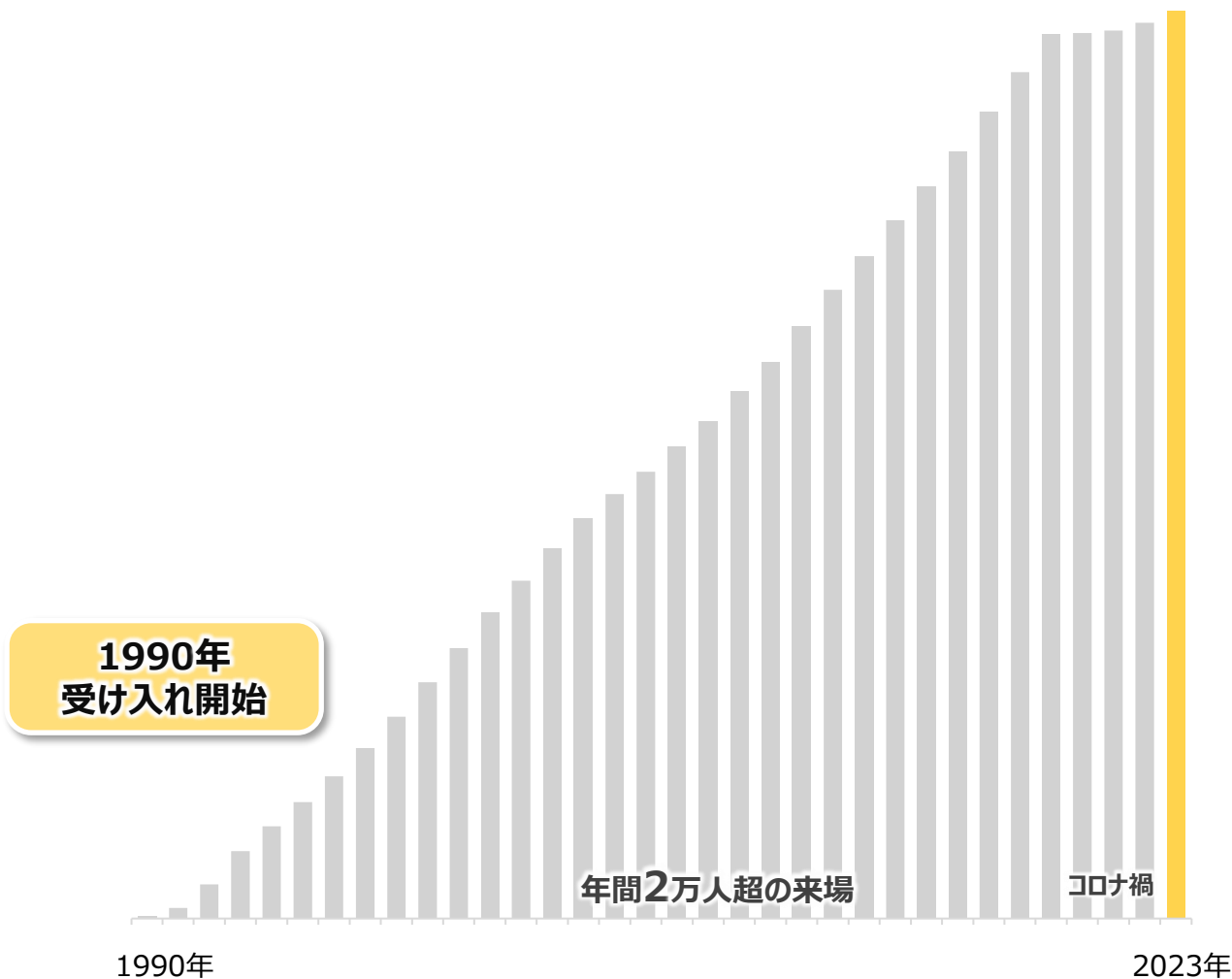
ペットボトル回収量

CO2削減量



リサイクル工場累計見学者数50万人突破

2023年10月 累計見学者数50万人突破



記念式典を開催

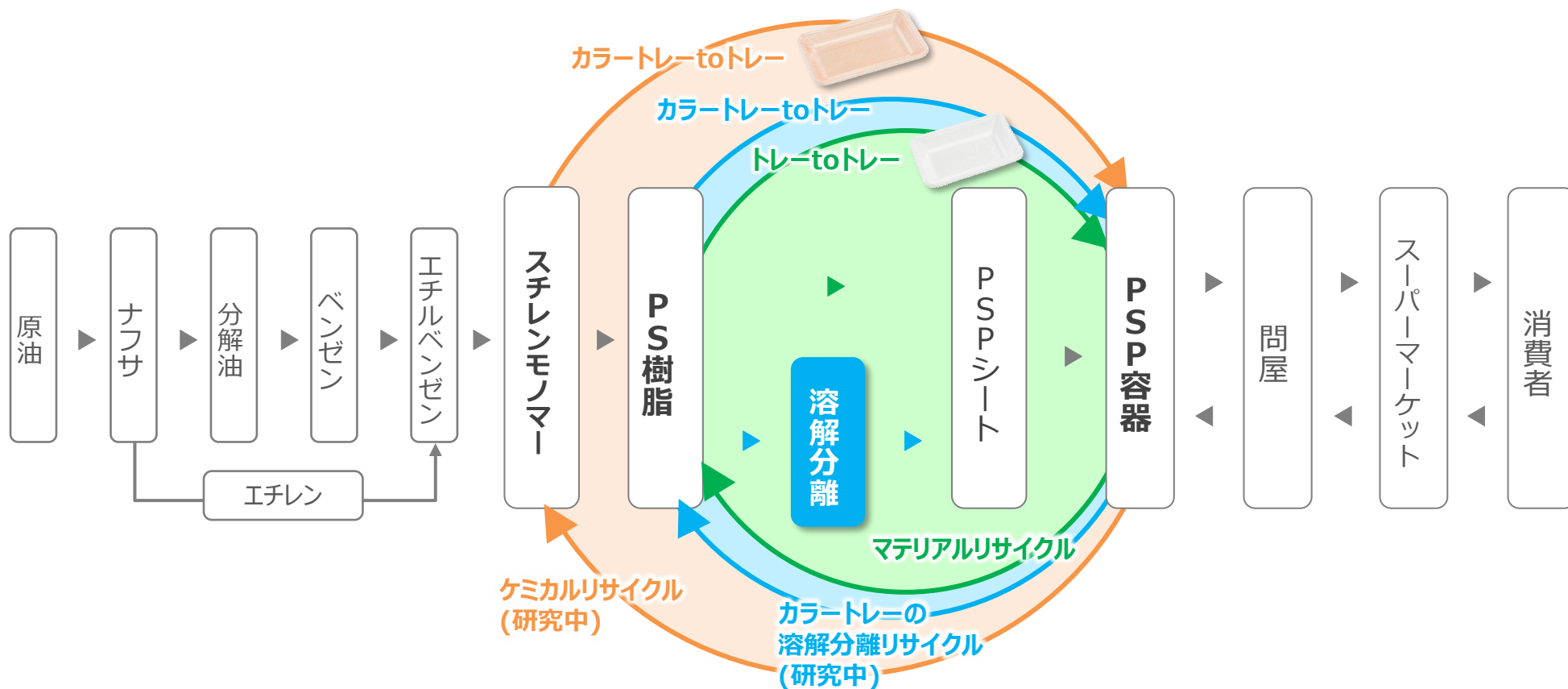
福山市立御幸小学校5年生の皆様



株式会社魚力の皆様



ポリスチレンの完全循環に向けて



マテリアルリサイクル

- ✓ 再生までのプロセスが簡素でエネルギー負荷が低い

溶解分離リサイクル (2024年目標)

- ✓ 黒ペレットのインクの色を抜く(脱墨法)
- ✓ マテリアルリサイクル同様に環境負荷が低い

ケミカルリサイクル (2026年目標)

- ✓ 除染能力が高い
- ✓ スチレンモノマーに戻すケミカルリサイクルなのでエネルギー負荷が低い

素材の多様化① バイオマスプラスチック製品

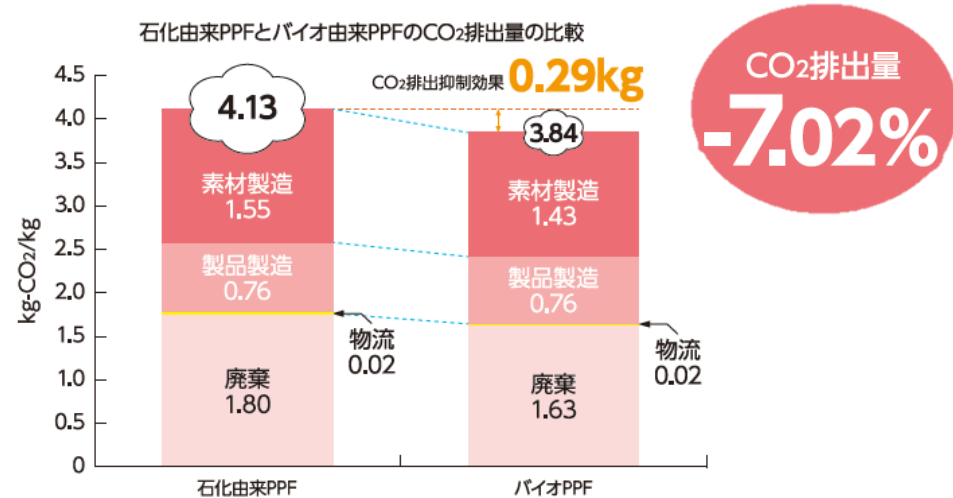
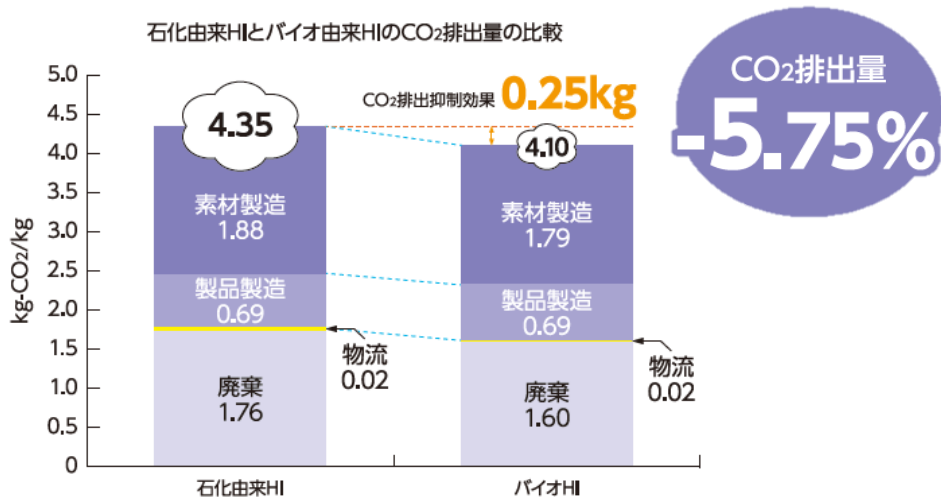
バイオHIPS



バイオPPF



- ☑ バイオHIPS・バイオPPF 2020年6月上市
- ☑ 植物由来原料 25%使用 / 日本バイオプラスチック協会 認定登録



素材の多様化② 紙製品

紙トレー サイズ追加



NEW



2023年2月上市
23-23(25)

紙丼シリーズ



紙弁当容器 (竹紙)



寿司容器 (竹紙)

米国スーパーマーケットにて採用決定
国内でも規格品として上市



能力を最大限に活かすダイバーシティ経営

8 働きがいも経済成長も



10 人や国の不平等をなくそう



選別

使用済み食品トレー
透明容器



特例子会社(エピコダックス)・就労継続支援A型事業所(エピコ愛パック)

製造

食品トレー容器の成形、
組立加工、検品、包装



職域拡大への挑戦



エピコグループ内の一般工場、物流の現場

エピコグループ° 2023年3月時点

障がい者雇用人数 : 365名

障がい者雇用率換算数 : 620.5名

障がい者雇用率 : 12.5%

障がい者雇用に関する評価

- 2019年1月 (厚労省)
「H30年度 障害者活躍企業」認証
(エピコダックス(株))
- 2023年9月 (東洋経済新報社)
「障害者雇用率ランキング」 2位
- 2022年6月 (厚労省)
「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定
(もにす認定)」 (エピコダックス(株))



お客様の障がい者雇用をサポート

エピコのサポートで
お取引様を中心に

52事業所 760名

の雇用が生まれました

2023年3月末時点

精肉の下味付け



農産品の加工



青果の検品・計量



惣菜加工



コンテナ洗浄



タオルの洗濯



海産物選別



古紙減容





エフピコ環境基金
The FP Corp. Environment Fund

1990年 「エフピコ方式のリサイクル」をスタート
2020年3月 「エフピコ環境基金」を創設
これからの社会的課題の解決をテーマに活動する団体への助成

助成実績

2021年3月期： 10団体
2022年3月期： 14団体
2023年3月期： 14団体
2024年3月期： 22団体



助成先団体の活動（一部紹介）

エフピコグループ社員もボランティアとして参加

宮島ネットワーク（広島県）



<活動内容>
宮島と周辺の海洋環境の
維持と生態系の保全

湘南クリーンエイドフォーラム（神奈川県）



<活動内容>
神奈川のビーチクリーン活動を
ワンボイス化プロジェクト

外部評価機関によるESG評価 (2023年10月時点)

Ratings



✓ 気候変動:
2022年度 **A-評価**
(2021年度 B評価)



✓ 2023年のレーティングで
Low Riskを維持

Index



FTSE4Good

✓ 2019年より
5年連続選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

✓ 2021年より
3年連続選定



FTSE Blossom
Japan Index

✓ 2019年より
5年連続選定

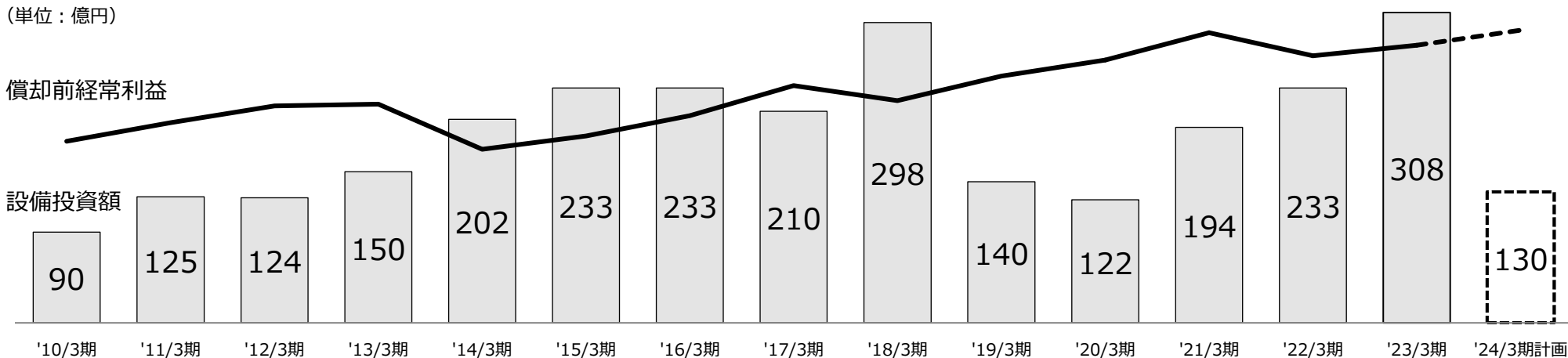
2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

✓ 2017年より
7年連続選定

戦略投資 安定供給



戦略投資



世界初の素材開発

- 2010年 マルチFP製品 上市
- 2012年 マルチソリッド製品 上市
- エコAPET 製品 上市
- OPET 製品 上市
- 新透明PP 製品 上市
- 2014年 PPI-タルク 製品 上市
- 2022年 耐寒PPI-タルク 製品 上市

生産・リサイクル強化

- 2012年 関東八千代工場
- 2016年 中部エコペット工場
- 2017年 関東エコペット工場
- 2018年 エピコアルライト工場
- エピコグラビア工場
- 2022年 中部第一工場
- 2023年 関西工場

物流網強化

- 2012年 中部ピッキング
- 2014年 福山クロスドックセンター
- 八王子配送センター
- 2020年 九州配送センター拡充
- 福山ハブセンター拡充
- 2021年 中部クロスドックセンター拡充
- 2023年 関西ハブセンター

人への投資

- 2014年 総合研究所・人材開発研修センター
- 2018年 広島営業所
- 2019年 エピコインターパック本社 单身寮PicoHouse(総戸数:473戸)
- 2017年 1号館(150戸)
- 2号館(102戸)
- 2020年 3号館(63戸)
- 4号館(18戸)
- 2022年 5号館(140戸)

電子レンジ・冷凍市場拡大

ESG投資拡大

路線便値上がり

人手不足

関西新拠点（関西工場・関西ハブセンター）

物流・生産能力

3割移行



広島県福山市

兵庫県小野市

- ✓ 配送距離の短縮
- ✓ 2024年問題の対応
(ドライバー不足+時間外労働の上限規制)
- ✓ 横持削減

さらなる安定供給体制へ

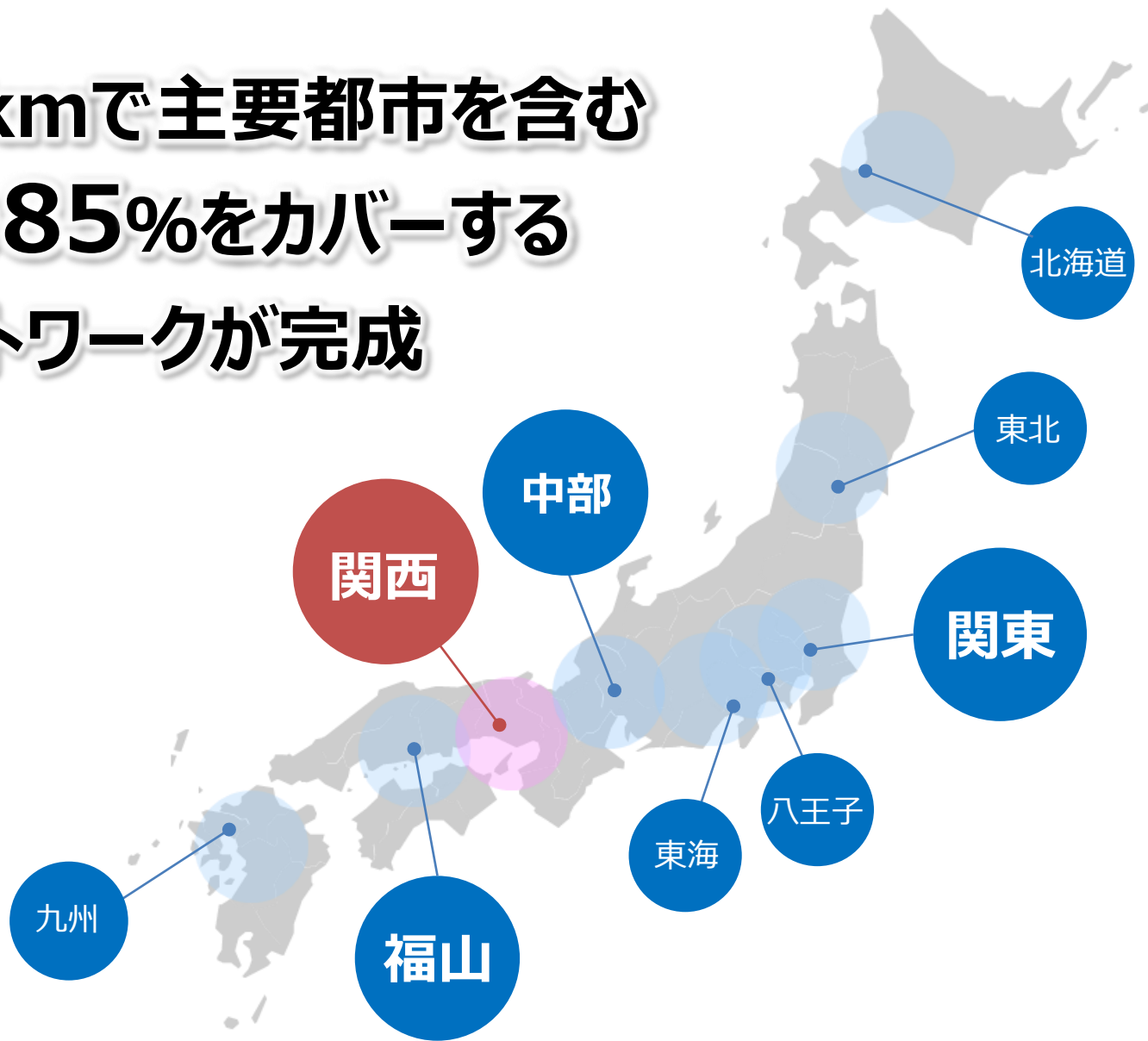


稼働時期：2023年1月
投資額：266億70百万円
延床面積：79,883.65㎡

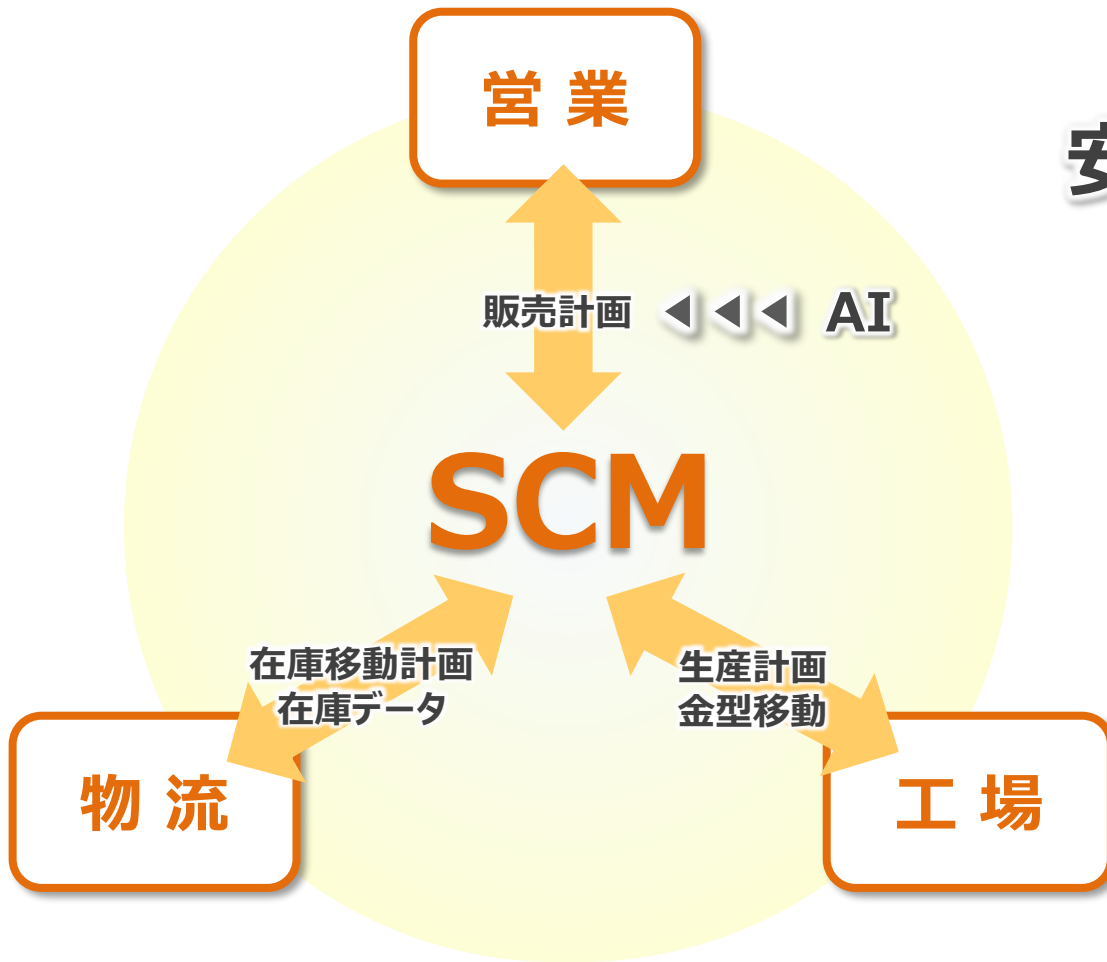
2022年9月 産業団地内の別区画を追加取得
(土地取得額：940百万円、敷地面積：29,136.58㎡)
2024年9月 使用済み容器の選別センターを開設予定

全国をカバーする物流ネットワーク

半径100kmで主要都市を含む
全人口の85%をカバーする
ネットワークが完成



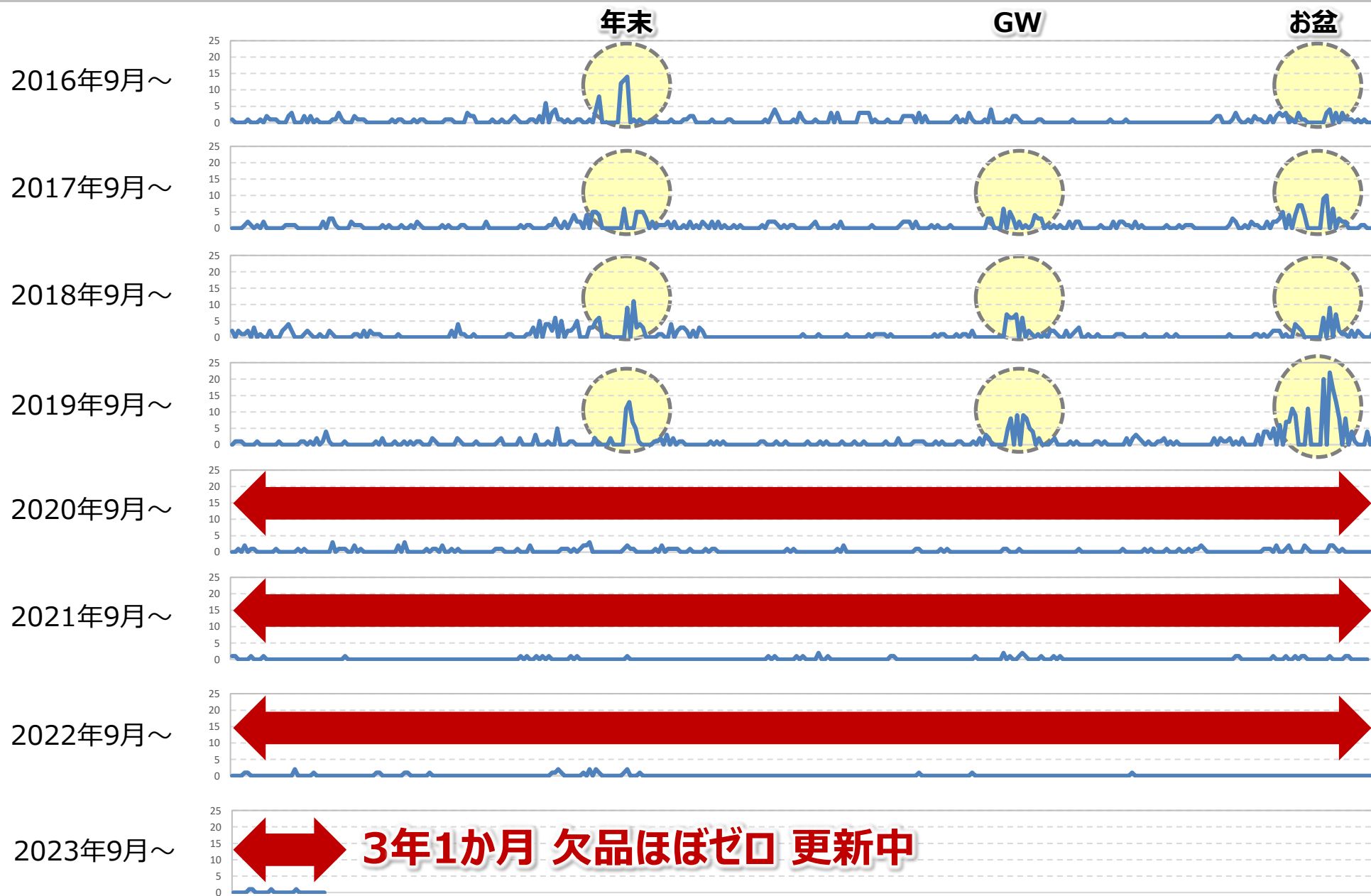
サプライチェーン・マネジメントシステム (SCM)



安全・安心な食生活を支える
安定供給

- ✓ 約10,000アイテムの品揃え
- ✓ 適切な在庫水準を維持
- ✓ AI活用による
販売予測の精度向上・効率化

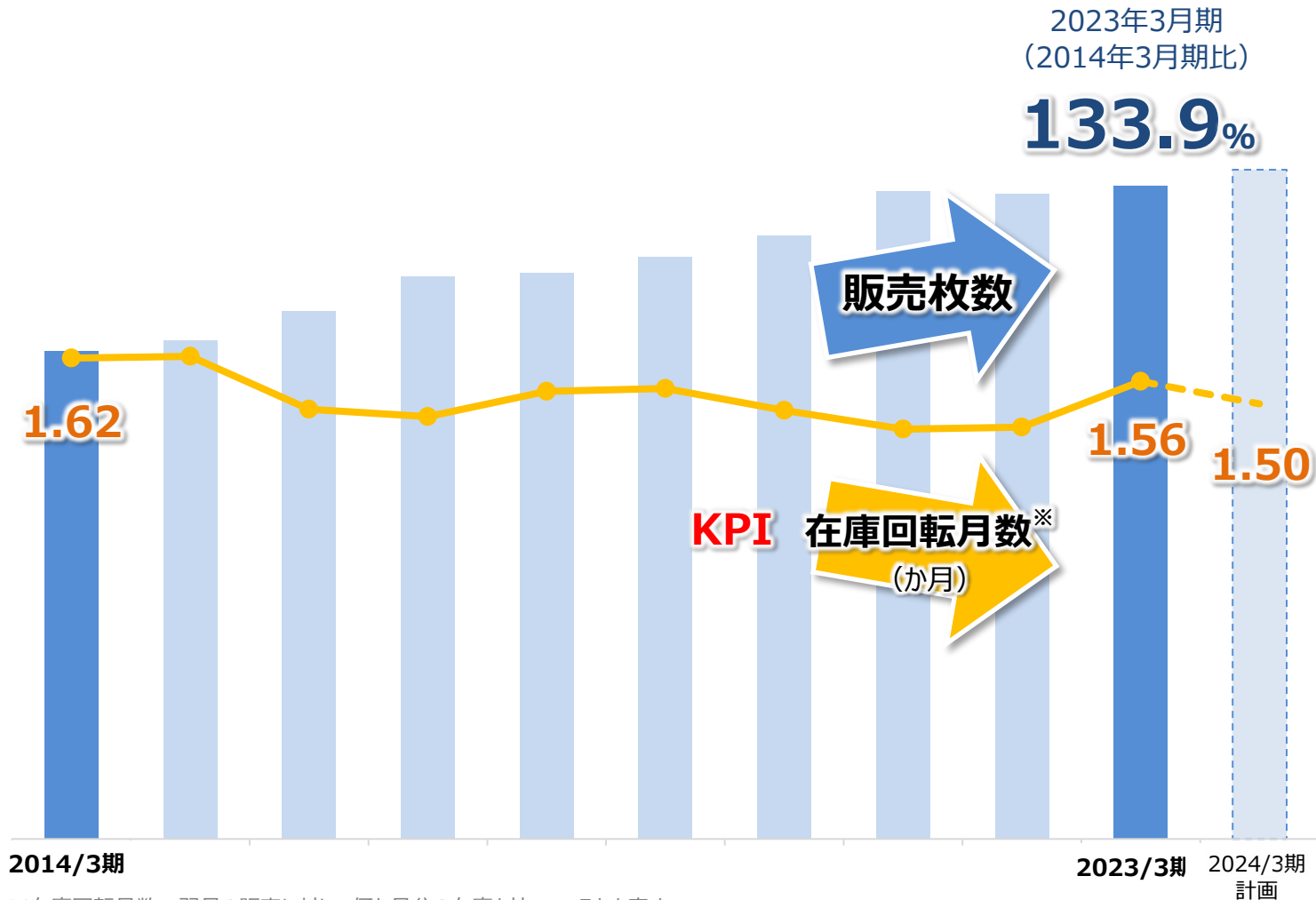
安定供給 - 欠品件数の推移



SCMによる適正在庫の維持

数量の伸長に対する在庫コントロール

資産効率改善



※在庫回転月数：翌月の販売に対して何か月分の在庫を持っているかを表す

物流費上昇を抑制する取り組み

自便比率

2023年9月

97.7%

(才数/台)

1台あたりの積載効率 **111.0%** 2024年3月期上期
2016年3月期上期比

'24年3月期

'23年3月期

'22年3月期

'21年3月期

'20年3月期

'19年3月期

'18年3月期

'17年3月期

'16年3月期

1,466

1,440

1,467

1,467

1,443

1,453

1,315

1,313

1,338

1,329

1,270

1,302

1,300

1,302

1,296

1,216

1,292

1,325

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

積載効率向上への取り組み

1ケースでも多く載せる 地道な取り組み

① 荷台の計測・積込才数検討



② 実際に積込



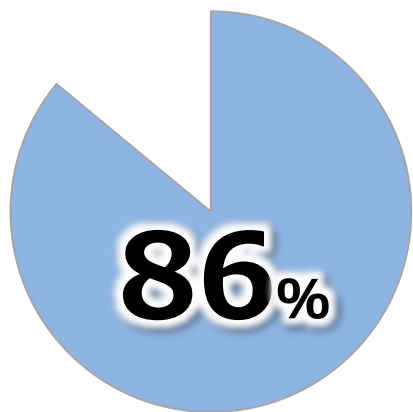
④ マスタ登録・検証



③ 積込後チェック

物流品質

指定時間にお届けする精度



到着計画時間
±15分以内



受付でドライバーに聞き込み

- ・納品時の交通・待機の状況
- ・納品順番などの要望



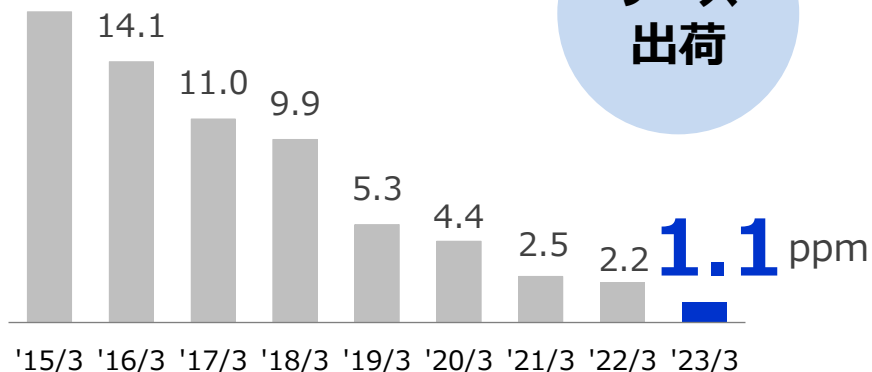
チームで配送順を再検討

- ・納品に同行し状況確認
- ・営業部へ相談

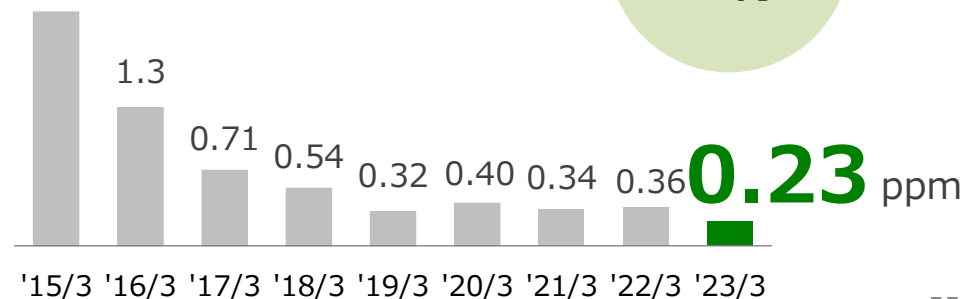
クレーム削減

(出荷ミス、ピッキングミス、誤配送など)

16.8




2.2



人への投資①自動化設備導入による省人・省力化

自動化による効果

- ✓ 単純なモノの移動の省人化
 - ✓ 重労働の軽作業化
 - ✓ 頻度の高い作業の省人化
- 
- ✓ 就労環境の改善
 - ✓ 職域の拡大
 - ✓ 付加価値業務への人員振替

生産部門



物流部門



- AGV（無人搬送車）
33台（'23/3期）
- AGF（無人搬送フォークリフト）
6台（'23/3期）
- ソーター
5センターに導入



单身寮PicoHouse



障がい者グループホーム



女性活躍推進

1. 2022年以降に採用する総合職の女性比率30%以上を目指す
2. 2026年までに女性管理職を50人にする（うち課長職以上を5人以上）
3. 2025年3月末までに男性の育児休業の取得率を50%以上にする



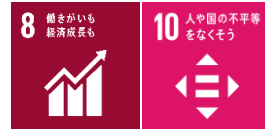
健康経営の推進

2023年3月
「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に2年連続認定



2023
健康経営優良法人
Health and productivity

人への投資③生産・物流部門の待遇改善



2019年3月期

- ✓ 退職金制度の拡充

2021年3月期

- ✓ 給与水準向上（深夜労働手当等の改定）

2024年3月期

人材の確保・定着に向けて

- ✓ 給与水準平均10.7%の大幅な改定
- ✓ 初任給の引き上げ
- ✓ 休日日数の増加

- ✓ **製造・物流会社における
離職者数が38名減少**

(2023/3期 128名 → 2024/3期 90名)
※自己都合のみ、4~10月給与締めまでの実績

- ✓ **ワークライフバランスの充実**

成長戦略



成長戦略

長期目標 売上 **3,000**億円
 経常利益 **300**億円

'24/3計画 売上 **2,213**億円
 経常利益 **180**億円

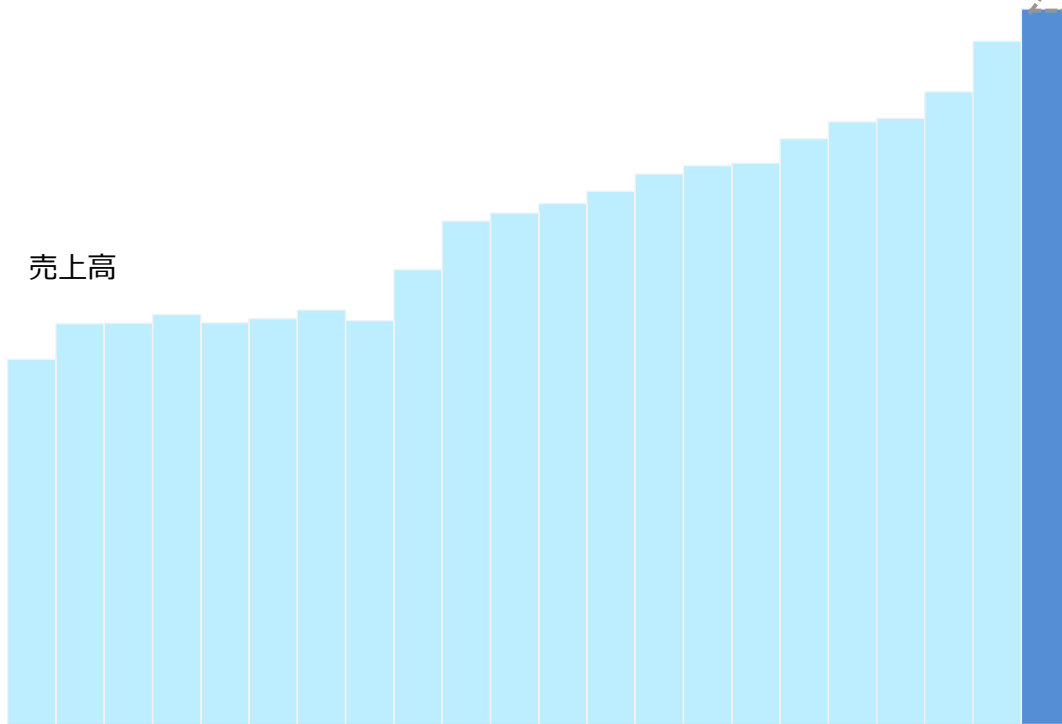
商品 **+600**億 **包装資材全般**
 製品 **+400**億 **新市場**(デリバリー・給食・冷凍など)
シェア増

リサイクルおよび代替素材の研究開発



M & Aの検討

売上高

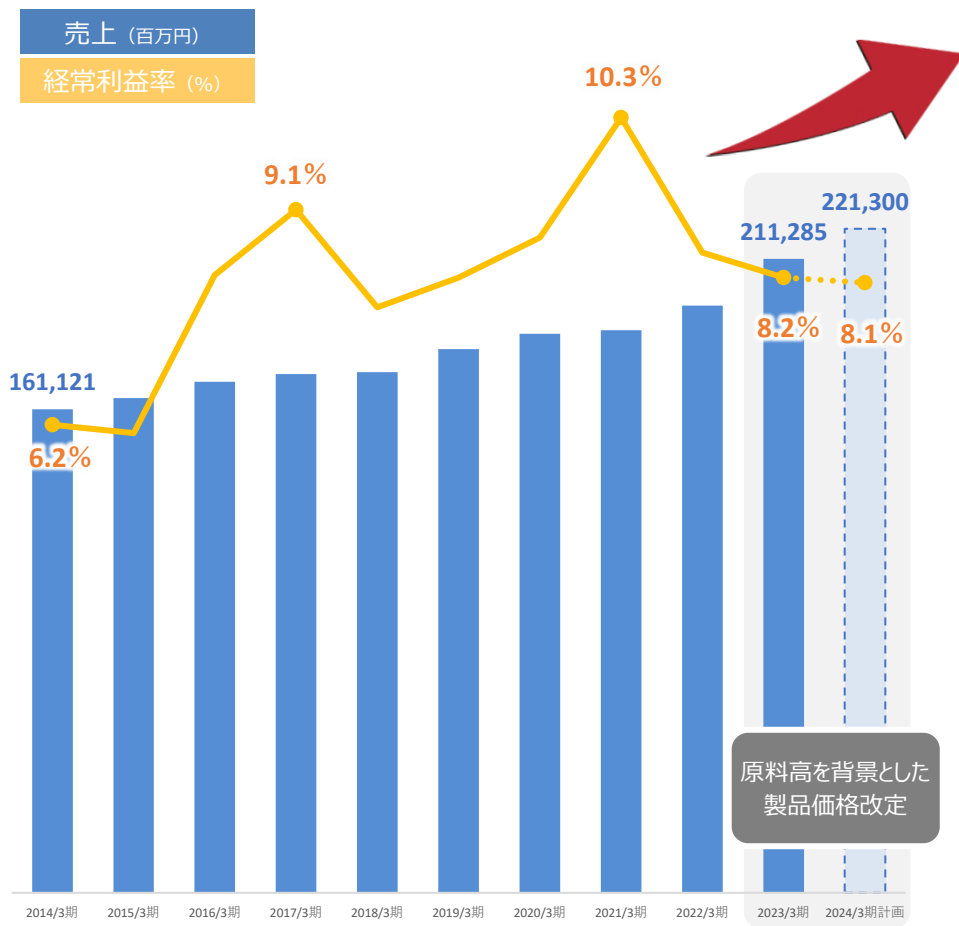


'03/3期 '06/3期 '09/3期 '12/3期 '15/3期 '18/3期 '24/3期計画 長期目標

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

製品拡大への取り組み

売り場提案力／オリジナル製品／新製品の継続的なリリース



エコ製品の拡大

- ✓ 溶解分離リサイクル、ケミカルリサイクルの社会実装
- ✓ PS再生原料の倍増によるエコ製品の拡大
- ✓ 原料価格変動に強い価格構造

軽量化製品の拡販

- ✓ 低発泡PSPの新シート×成形技術
- ✓ プラスチック使用量を削減したアイテムの拡大
- ✓ ユーザーにおける容り法の委託金の負担を軽減
- ✓ 材料費の抑制による粗利改善

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

LSSPI社 持分法適用関連会社化

企業名	Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.
事業内容	<p>簡易食品容器等の製造・販売。マレーシア最大手。</p> <p>参考) SCGM Bhd. 2022年4月期業績 売上高：8,740百万円、当期利益：948百万円</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>OPS(フードパック)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>PP(カップ)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>PET(カップ)</p> </div> </div>
従業員数	488名(2022年9月時点)
取得価額	取得総額：約167億円（当社取得額：約67億円）
株主 (持株比率)	三井物産 60%（海外経営ノウハウ・販売拡大） エフピコ 40%（生産性の向上）
株式取得日	2022年8月31日



▶ SCGM社 売上高推移



▶ 持分法適用関連会社化メリット

東南アジア
人口増加・経済成長

機能性容器の市場拡大

1つの工場生産
(2019年新工場移転)

見える範囲で管理できる

スペースに余裕あり
旧型生産設備あり

知見・ノウハウ活用により
大幅な生産性改善が可能

販売先が分散
(最大2~3%)

顧客依存度が低い

LSSPI社 取り組み状況

Step1

3か年計画「2倍の生産性へ」

- ・エフピコのノウハウによって、成形スピードアップ
- ・自動化、省人化の推進

Step2

マレーシア・シンガポールで
圧倒的シェア獲得

Step3

さらに拡大が期待される
東南アジア市場の礎へ



アペックス グループ会社化①

企業名	株式会社アペックス
設立	1974年2月8日
代表者	代表取締役社長 村井 章平 ↳ 亀澤 徹 ※2023/9/29付 就任 (元エフピコインターパック取締役)
事業内容	各種包装資材卸売など



2018年11月 株式取得
議決権所有割合 **20%**
(持分法適用関連会社化)

2023年9月 株式追加取得
議決権所有割合 **100%**

九州地区における容器シェア第2位の
食品包装資材ディーラー



エフピコグループとして
新たなステージへ

アペックス グループ会社化②

エフピコグループのインフラ

① ディーラー向け基幹システム

(全国のディーラー6社導入済み、1社導入中)

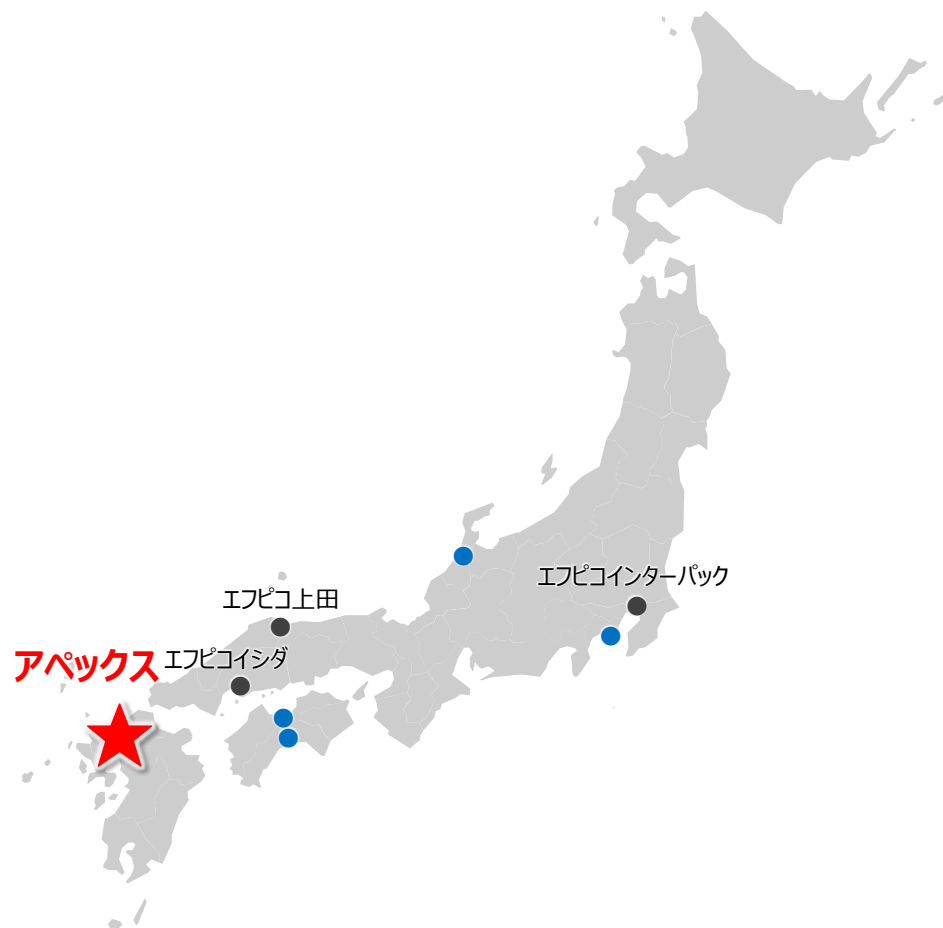
② DC、PC等の物流インフラ

包装資材のECサイト

③ 「パックマーケット」

エフピコ商事の

④ 商品マーチャндаイジングカ

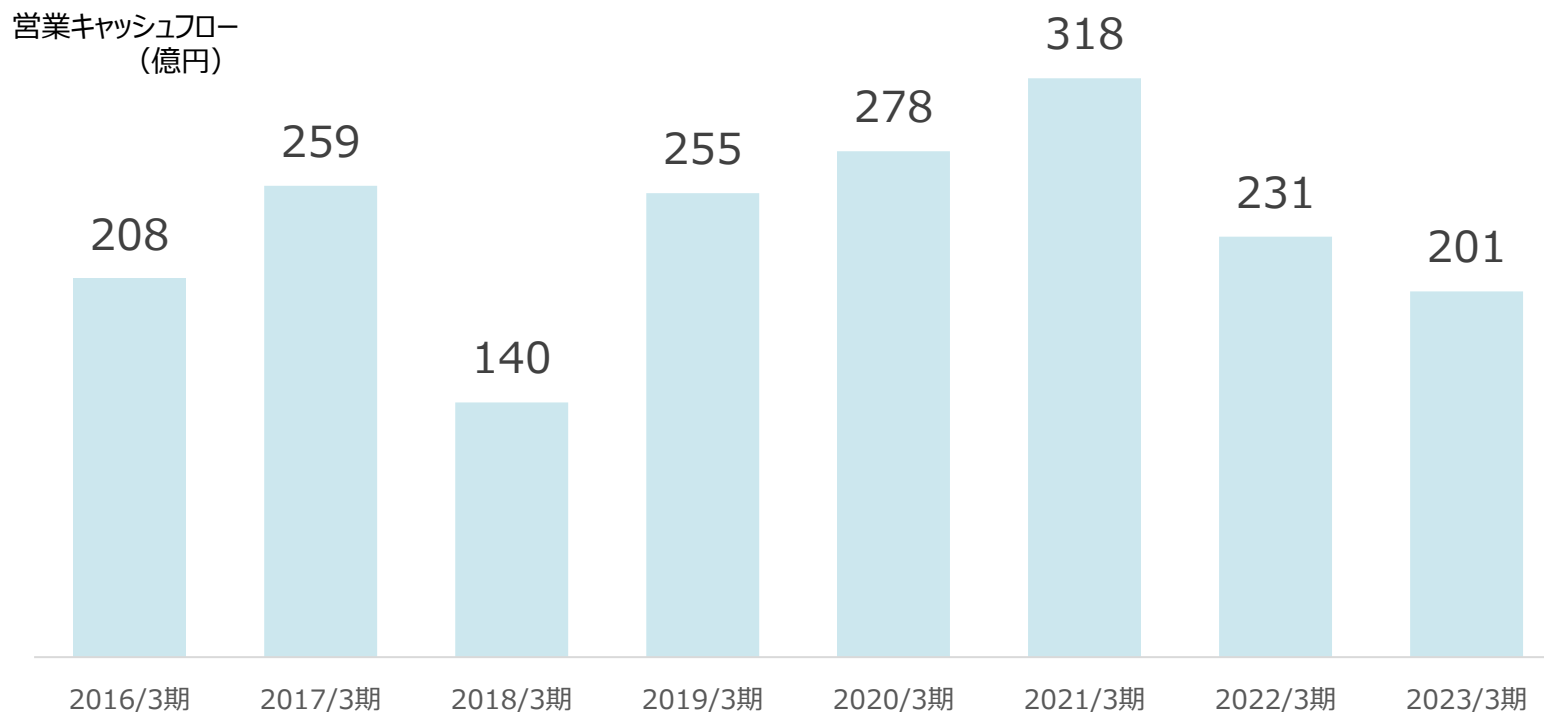


エフピコグループのインフラを活用することで

アペックスの競争力を強化

キャッシュ創出

平均**236**億円（直近8年間）の営業キャッシュフローを創出



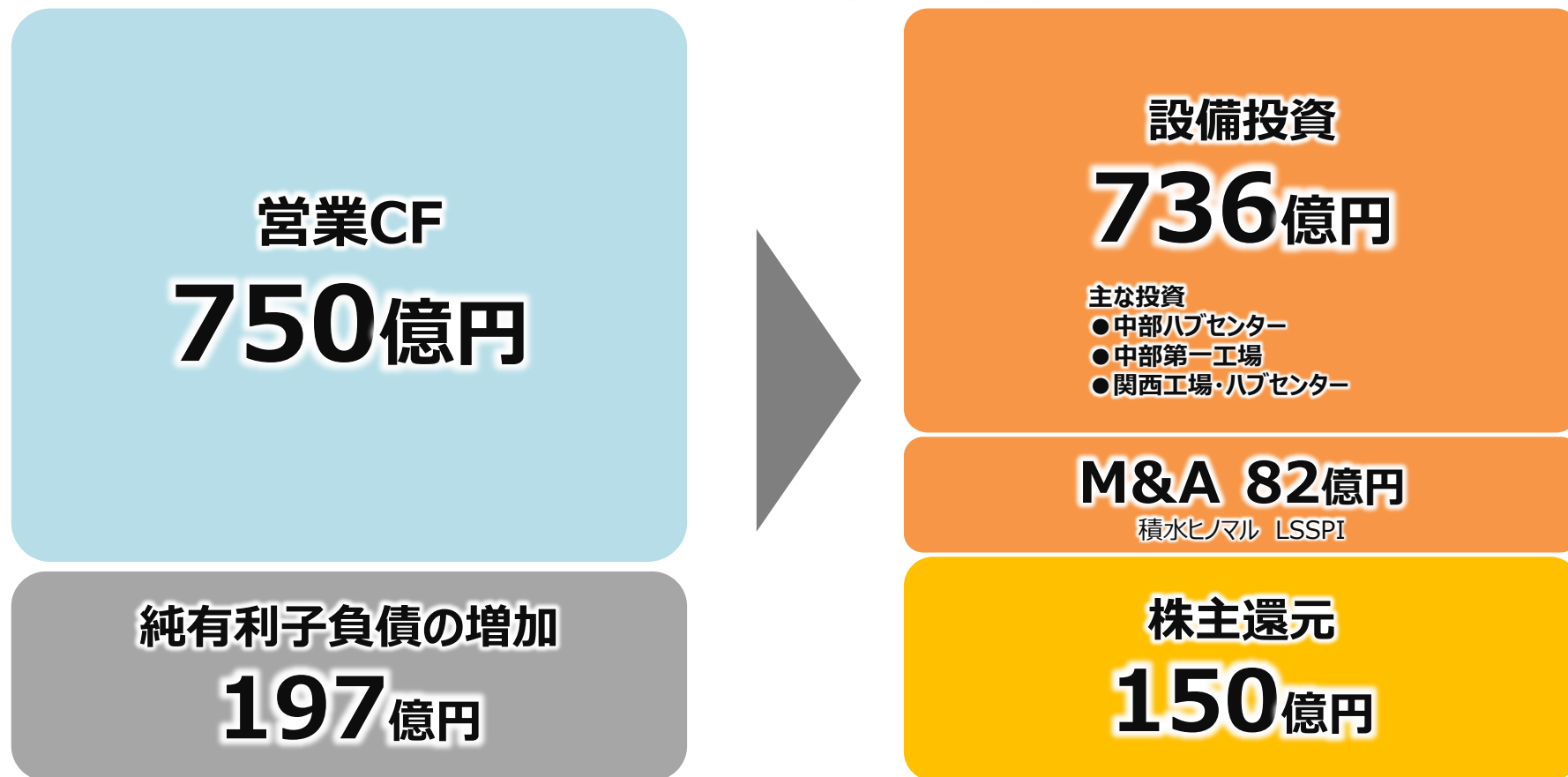
■主な内訳

	（億円）							
	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
税金等調整前当期純利益	138	156	132	144	160	181	165	169
減価償却費	95	112	117	132	135	136	136	142
売上債権・棚卸資産の増減額	3	28	△ 79	△ 14	44	△ 21	△ 40	△ 86
法人税の支払額	△ 32	△ 54	△ 44	△ 37	△ 56	△ 51	△ 71	△ 44
その他	4	17	14	30	△ 5	73	41	20
営業キャッシュフロー	208	259	140	255	278	318	231	201

財務戦略

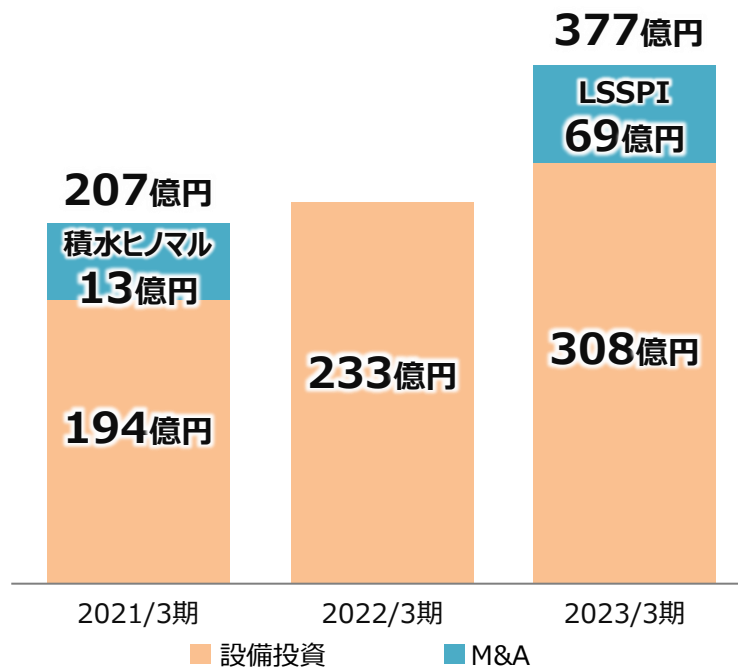
- 営業キャッシュフローは、将来の成長や安定供給に向けた設備投資やM&A、株主還元に充当
- 財務安全性を考慮しつつ、借入金を活用

金額は3年間累計（2021/3期～2023/3期）



設備投資・M&A

直近3年間の設備投資・M&Aの推移



安定供給

生産能力の増強、物流ネットワークの整備

- 関西工場・ハブセンター
- 中部第一工場
- 中部ハブセンター

M&A

業界再編、当社初の海外進出

- 積水ヒノマル
- LSSPI

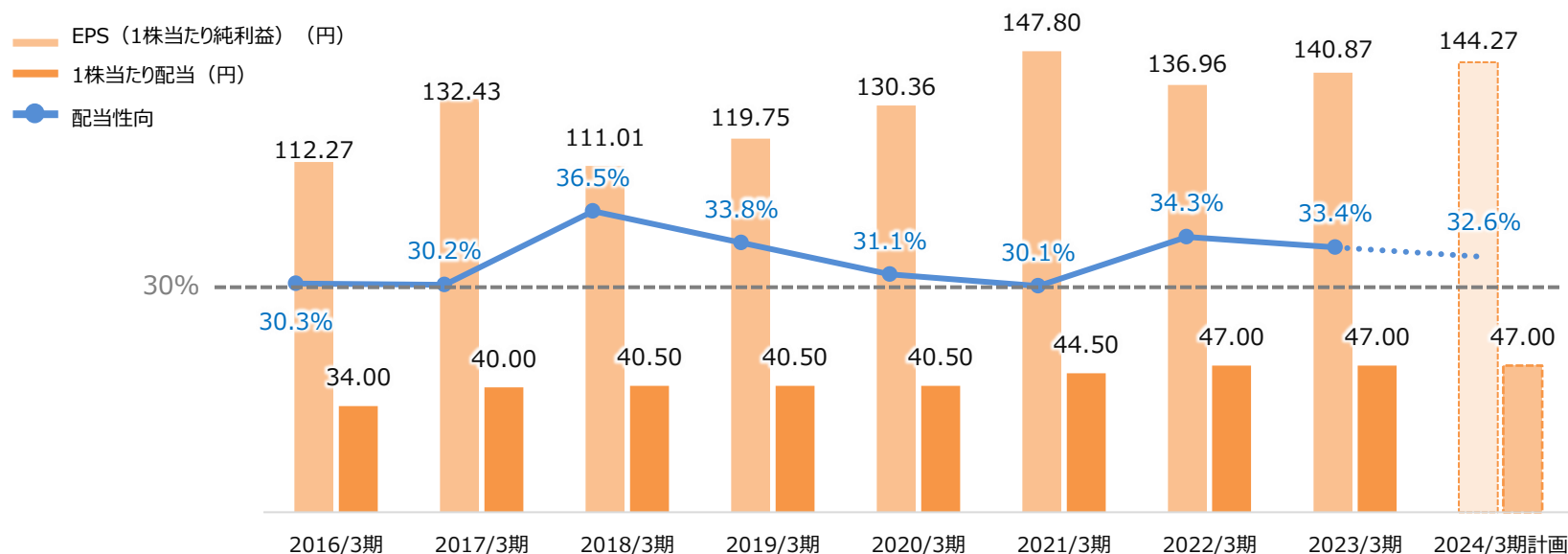
今後の方向性

- 設備投資は年平均200億円を目途に継続
- 溶解分離リサイクル・ケミカルリサイクル
▶ エコ製品の拡大
- 技術のアップデート
▶ 原反技術と金型を含む成形技術の深化による製品の更なる軽量化
▶ 自動化を含む生産性の改善
- M&A
▶ 製品ラインアップ・サービスの拡充
▶ 当社グループの様々なインフラを活用したサービスの展開

加えて、数量拡大に対する能力増強を検討

株主還元

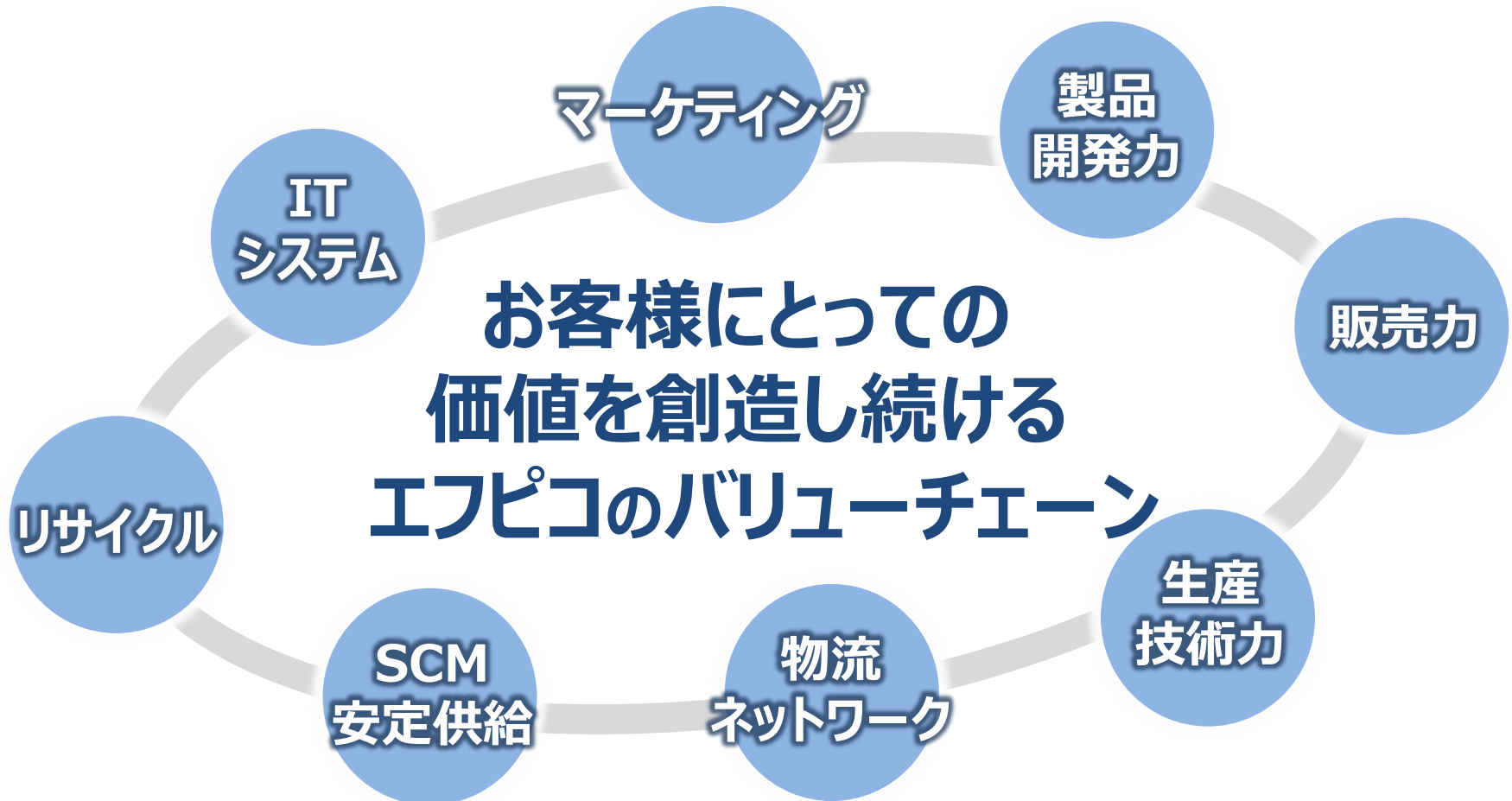
- 配当金は、連結配当性向30%を目途に継続的かつ安定的に実施
 - ▶ EPSを高めることで増配を図る
- 自己株式の取得は、財務の健全性を維持しつつ、戦略投資や株価水準等を勘案し、機動的・柔軟な還元を検討



(単位：億円)	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
配当	28	33	33	33	33	37	38	38
自己株式の取得	-	-	-	-	-	40	-	-
合計	28	33	33	33	33	77	38	38
総還元性向	30.3%	30.2%	36.5%	33.8%	31.1%	62.7%	34.3%	33.4%

企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」
「どこよりも競争力のある価格で」
「必要なときに確実にお届けする」



添付資料

用語解説

PS	ポリスチレン
PET	ポリエチレンテレフタレート
PP	ポリプロピレン
エコトレー	スーパーで店頭回収された発泡PS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（1992年販売開始）
エコAPET容器	スーパーで店頭回収されたPET 透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とするリサイクルPET透明容器（2012年販売開始） 耐熱温度+60℃
エコOPET容器	エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PET（OPET）シートから成形したリサイクルOPET透明容器（2016年販売開始） 耐油性に優れ、透明度も高くOPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度+80℃
新低発泡PSP容器	非発泡容器と同等の強度及びシャープな形状を維持しながら、プラスチック使用量を削減した発泡PS容器 非発泡容器と比較して50%~60%軽量化
マルチFP(MFP)容器	-40℃~+110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS容器（2010年販売開始）
マルチソリッド(MSD)容器	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器（2012年販売開始） 耐熱温度+110℃
透明PP容器	標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110℃（2012年販売開始）
耐寒PPi-タルク容器	従来の耐寒PPファイラー容器と比較し、強度を保ちながらプラスチック使用量を削減した容器（2022年販売開始）
OPS容器	従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度+80℃
HIPS容器	剛性に優れ成形性が良い非発泡PS容器 耐熱温度+90℃
バイオHIPS容器	植物由来原料を25%配合したHIPS（非発泡ポリスチレン）容器（2020年販売開始）
バイオPPF容器	植物由来原料を25%配合したPPF（ファイラー入りポリプロピレン）容器（2020年販売開始）
溶解分離リサイクル	マテリアルリサイクルにより生産された黒色PSペレットを溶解、脱色したうえで、食品容器向けの再生PS原料を生産する手法 DIC(株)が開発した世界初の技術
配送センター	製商品の入荷から受注・配車・出荷・トレー回収までを行う物流拠点
ハブセンター	複数の棟をソーターシステムで連結し、出荷の自動仕分け、集約を行う配送センター
DC（ディストリビューションセンター）	包材問屋向けにケース出荷を行う物流部門
PC（ピッキングセンター）	スーパーマーケット向けの小ロットピッキング出荷を行う物流部門
選別センター	店頭回収した発泡PS容器を白と色に、透明容器をPS・PET・PP等の素材に選別するリサイクル拠点

世界初の素材・シート

PP : ポリプロピレン

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難く、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い

PP-タルク

- ☆ 強度を保ちながらプラスチック使用量削減

新透明PP

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 透明性がOPSと同等



PS : ポリスチレン



PSP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 軽量化が可能
- ☆ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い : +80℃
- ★ 耐油性に劣る

MFP : マルチFP

: 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 断熱性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 幅広い温度帯をカバー
-40℃ ~ +110℃
- ☆ コシ強度がある
- ☆ 軽量化が可能



マルチFP端材の循環

MSD : マルチリッド

: 非発泡PS

OPS : 二軸延伸PS

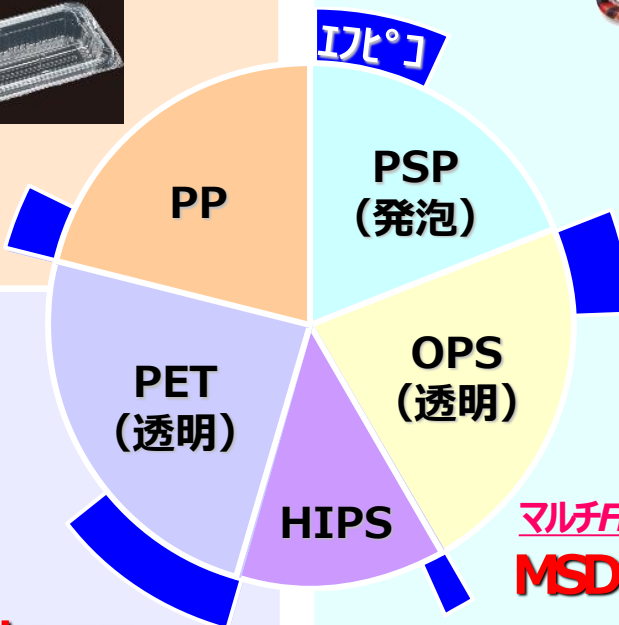
- ☆ 透明性がある
- ☆ 耐熱性 : +80℃
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界

PET : ポリエチレンテレフタレート

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い : +60℃
- ★ 比重が大きい

OPET : 二軸延伸PET

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 耐熱性がOPSと同等 : +80℃
- ☆ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい



業績推移①

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ適及適用

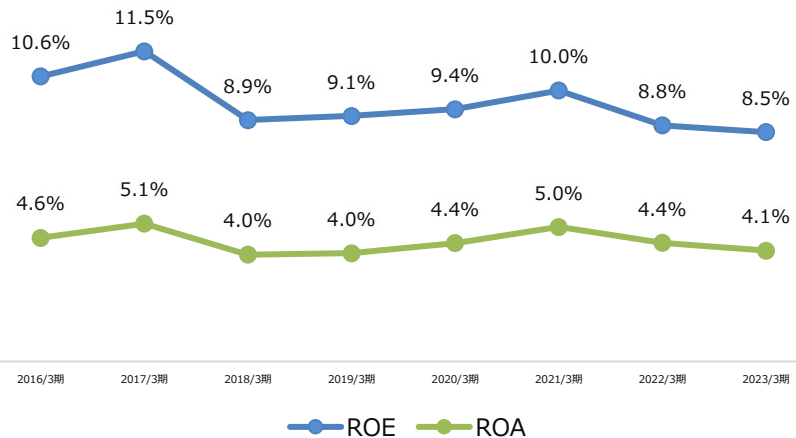
(百万円)

	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
売上高	170,292	172,858	173,580	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285
営業利益	13,248	15,176	12,884	13,949	15,507	18,763	15,884	16,703
経常利益	14,027	15,742	13,548	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328
純利益	9,294	10,953	9,178	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529
償却前経常利益	23,554	26,926	25,255	28,031	29,807	32,991	30,340	31,509
売上高経常利益率	8.2%	9.1%	7.8%	8.2%	8.7%	10.3%	8.5%	8.2%
ROE	10.6%	11.5%	8.9%	9.1%	9.4%	10.0%	8.8%	8.5%
ROA (総資産純利益率)	4.6%	5.1%	4.0%	4.0%	4.4%	5.0%	4.4%	4.1%
EPS (円/株)	112.27	132.43	111.01	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87
配当 (円/株)	34.00	40.00	40.50	40.50	40.50	44.50	47.00	47.00
配当性向	30.3%	30.2%	36.5%	33.8%	31.1%	30.1%	34.3%	33.4%
自己株式取得	-	-	-	-	-	3,999	-	-
総資産	209,053	219,481	244,147	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623
純資産	91,591	99,721	106,219	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171
現預金	15,089	18,144	15,659	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255
有利子負債	75,319	80,551	91,991	91,402	80,341	73,459	80,171	102,006
自己資本比率	43.6%	45.3%	43.4%	44.8%	49.0%	50.3%	50.2%	46.7%
設備投資	23,383	21,060	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853
減価償却費	9,526	11,183	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180
研究開発費	1,242	1,223	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295
オリジナル製品比率	47.3%	52.3%	55.7%	59.2%	60.5%	62.0%	61.9%	63.6%
在庫回転月数 (ヶ月)	1.49	1.47	1.53	1.54	1.48	1.44	1.44	1.56
リサイクル回収重量 (t)	28,591	36,631	55,262	75,730	82,629	85,070	83,330	91,350
リサイクル回収拠点数 (カ所)	9,200	9,200	9,150	9,260	9,390	9,800	10,000	10,500

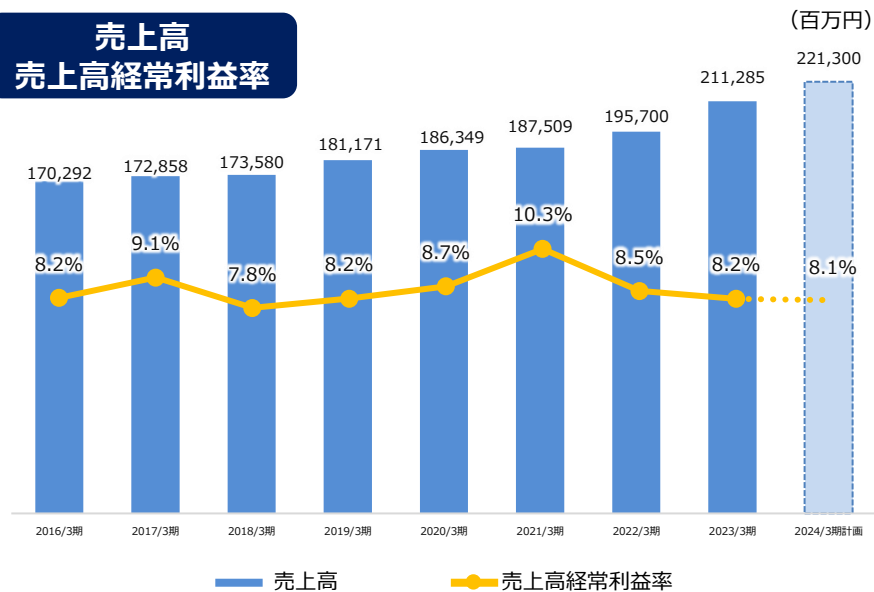
業績推移②

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

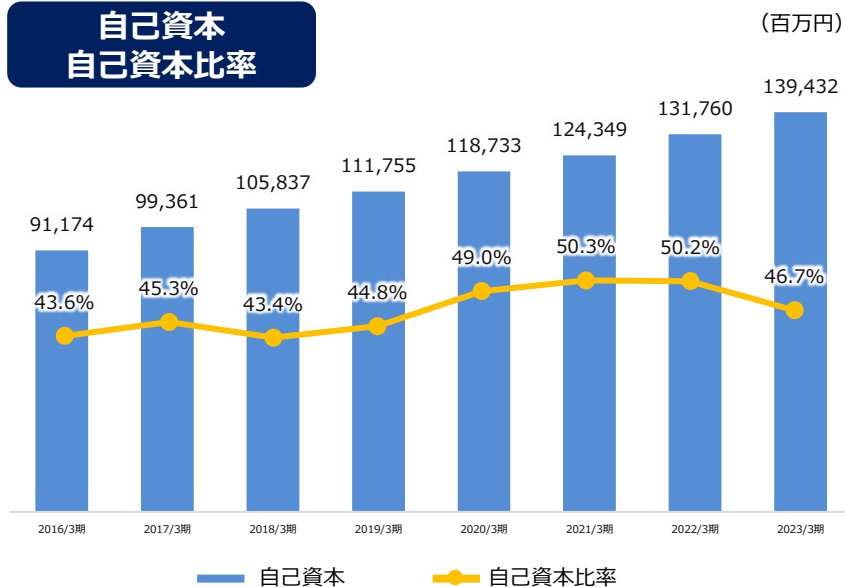
ROE ROA



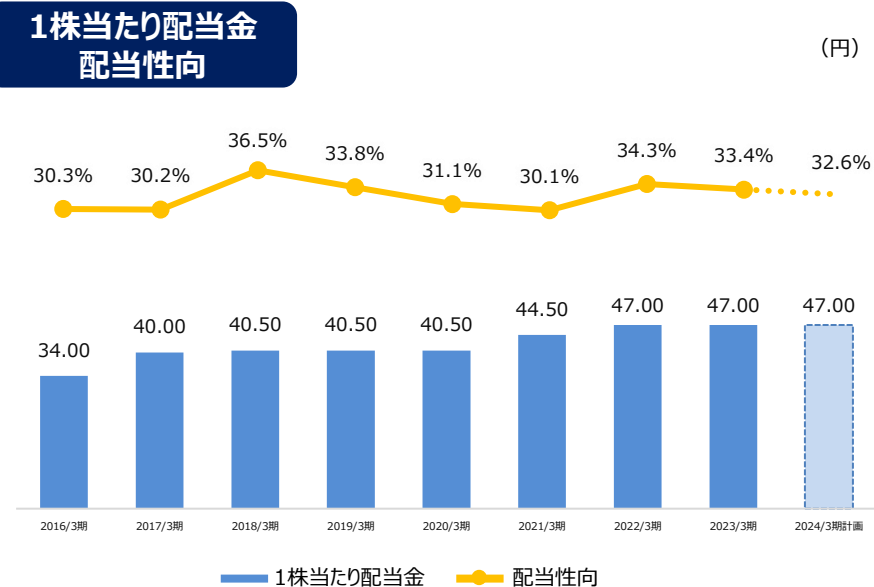
売上高 売上高経常利益率



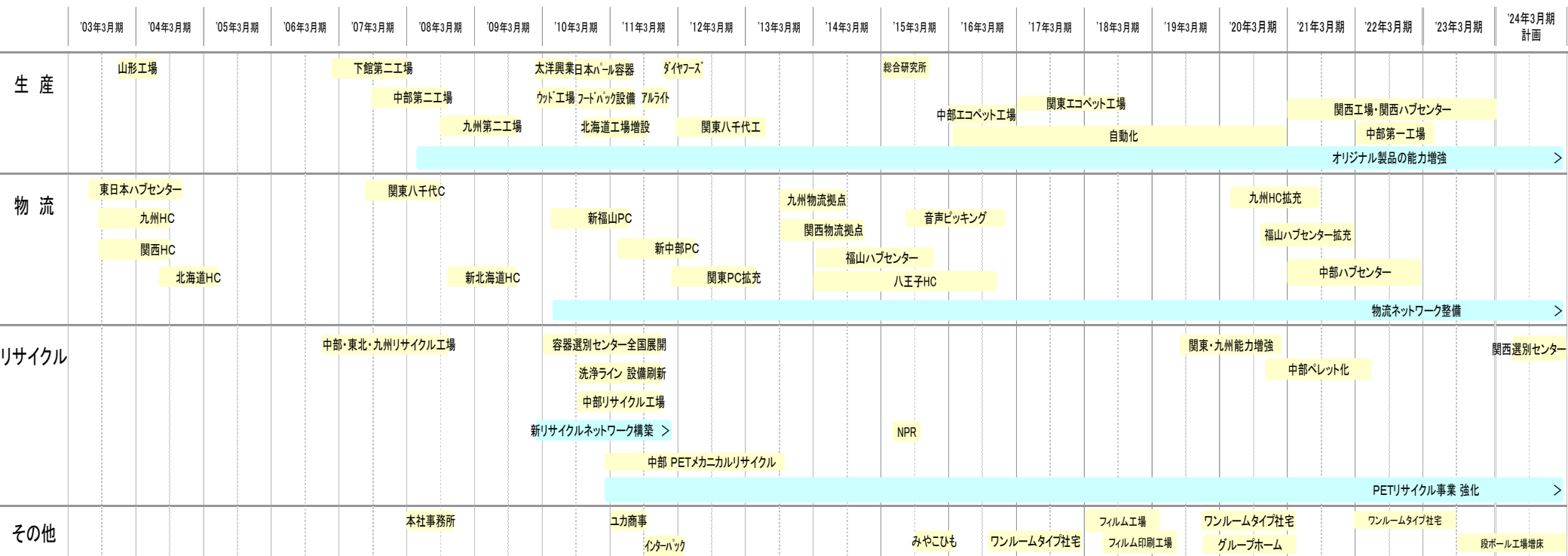
自己資本 自己資本比率



1株当たり配当金 配当性向

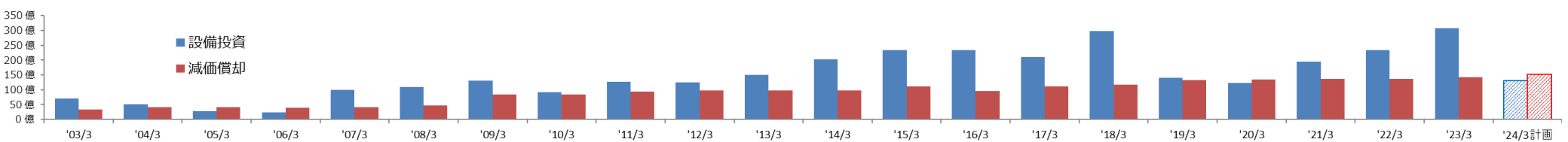


設備投資 推移



単位: 百万円

	'03/3	'04/3	'05/3	'06/3	'07/3	'08/3	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3	'18/3	'19/3	'20/3	'21/3	'22/3	'23/3	'24/3 計画
設備投資	7,096	5,037	2,742	2,394	9,885	10,909	13,007	9,090	12,585	12,423	15,087	20,258	23,377	23,383	21,060	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	13,000
有形	6,138	4,248	2,621	2,156	9,523	10,655	12,166	8,827	12,352	12,093	14,783	19,751	23,051	23,058	20,790	29,342	13,442	11,688	19,105	23,084	30,121	12,500
無形	958	789	120	238	362	254	841	263	233	329	303	506	325	324	269	549	595	525	306	277	732	500
内金型	780	460	436	550	771	609	1,892	1,507	1,833	1,946	1,425	2,151	2,416	1,777	2,028	1,485	1,462	1,756	1,426	2,028	1,753	1,785
減価償却	3,339	4,210	4,134	3,965	4,194	4,742	8,467	8,461	9,316	9,728	9,746	9,703	11,136	9,526	11,183	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,200
研究開発	654	628	689	751	895	913	965	1,035	1,101	1,051	1,062	1,148	1,105	1,242	1,223	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,506



>>'09年3月期より設備投資には、リース調達を含む投資額を表示しております。

食品容器マーケットの推移

スーパーマーケット

エピコグループ
売上高

コンビニエンスストア

食品メーカー
(中食向け)

テイクアウト
デリバリー

冷凍食品

病院・介護施設

M&A

エコ・軽量化製品

人手不足

食品ロス

原料高騰

少子高齢化

業界再編

環境意識



エコトレ



オリジナル製品



蓋付トレ



カラートレイ



白トレ

1960年代 1970年代 1980年代 1990年代 2000年代 2010年代 2020年代

全国を網羅する生産・物流拠点

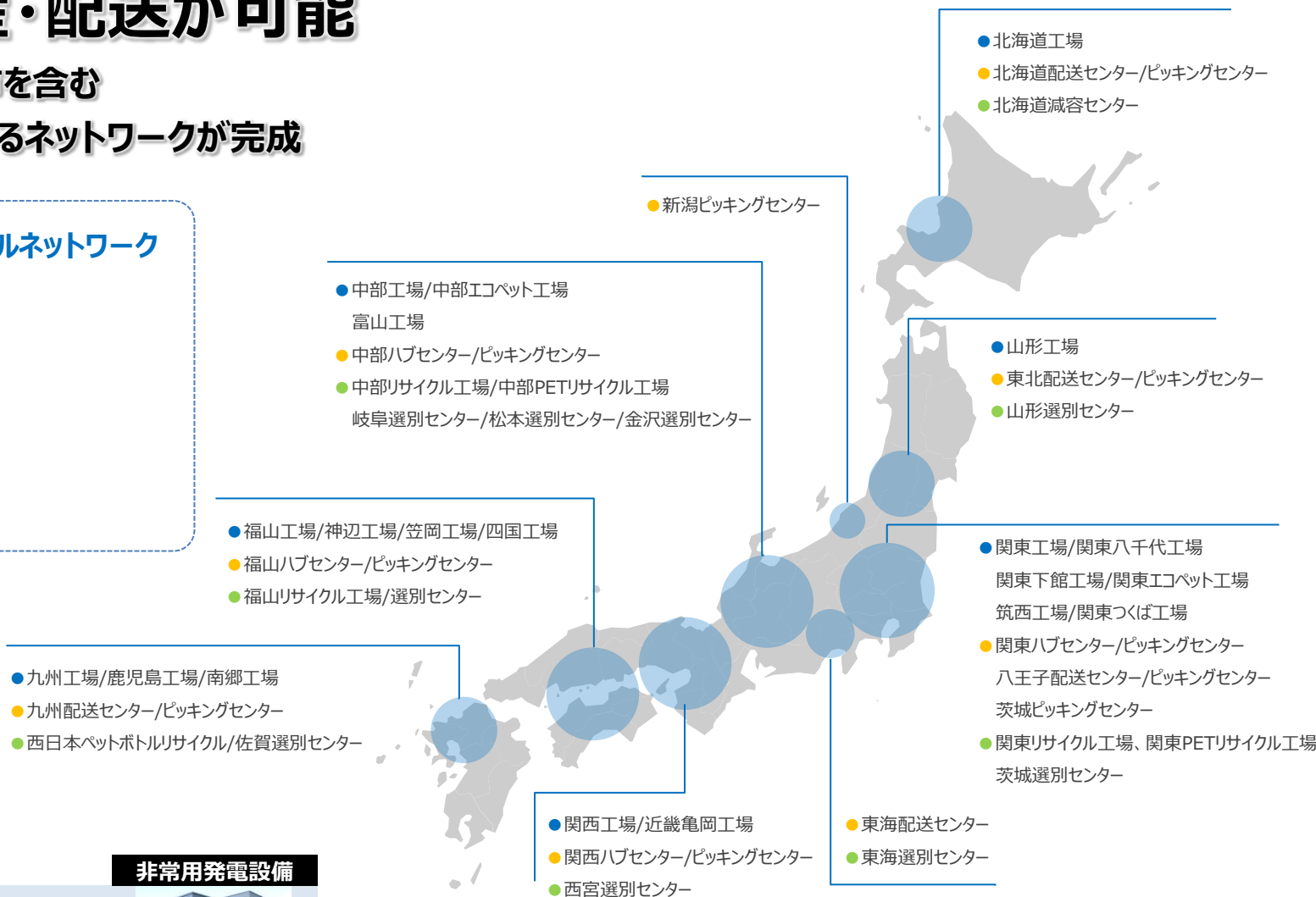
各エリアで 生産・配送が可能

半径100kmで主要都市を含む

全人口の85%をカバーするネットワークが完成

エフピコの製造・物流・リサイクルネットワーク

- 生産工場 20拠点
- 配送・ハブセンター 9拠点
- ピッキングセンター 10拠点
- リサイクル工場 3拠点
- PETリサイクル工場 3拠点
- 選別・減容センター 10拠点



非常用発電設備



B C P (事業継続計画) “災害時の安定供給”
全国の物流施設すべてに非常用発電設備を設置
72時間の電力供給を確保

海洋プラスチック問題 世界と日本の動向

世界の動向

2017年 **中国** 廃棄物輸入規制をWTOに通知

2018年 **G7** 海洋プラスチック憲章

2019年

2021年

バーゼル条約改正

一部の廃プラスチックが輸出規制の対象に

<規制対象外となるプラスチックの具体例>

- ①ペレット状のプラスチック
- ②フレーク状またはフラフ状かつ、ほとんど無色透明又は単一色のプラスチック
- ③製品の製造工程等から排出されるシート状、ロール状、又はベール状のプラスチック
- ④インゴット状の発泡ポリスチレン（PS）

日本の動向

環境省 プラスチック資源循環戦略

(マイルストーン抜粋)

- ・**2030年**までに容器包装の**6割**をリユース・リサイクル
- ・**2035年**までに使用済みプラスチックを**100%**リユース・リサイクルなどにより有効利用
- ・**2030年**までにバイオプラスチックを**約200万トン**導入

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

(概要抜粋)

【製造・販売事業者等による自主回収】

- 製造・販売事業者等が製品等を**自主回収・再資源化する計画**を作成する。

→ 主務大臣が認定した場合に、認定事業者は廃棄物処理法の**業許可が不要**に。

環境省 プラスチック資源循環戦略

カナダ・シャルルボアG7サミット 「海洋プラスチック憲章」

代替品が環境に与える影響の全体像を考慮し、使い捨てプラの unnecessary 使用を最大限に削除する。

2030年までに100%のプラスチックが、再使用可能、リサイクル可能又は、実行可能な代替品が存在しない場合には、熱回収可能となるよう産業界と協力する。

2030年までにプラスチック包装の最低55%をリサイクル又は再使用し、2040年までには全てのプラスチックを熱回収含め100%有効利用するよう産業界及び政府の他のレベルと協力する。

適用可能な場合には、2030年までにプラスチック製品においてリサイクル素材の使用を少なくとも50%増加させるべく産業界と協力する。

環境省 プラスチック資源循環戦略 「マイルストーン」

リデュース

消費者はじめ国民各界各層の理解と連携協働の促進により、代替品が環境に与える影響を考慮しつつ、**2030年までに、ワンウェイのプラスチック（容器包装等）をこれまでの努力も含め累積で25%排出抑制**するよう目指します。

リユース・ リサイクル

2025年までにプラスチック製容器包装・製品のデザインを、容器包装・製品の機能を確保することとの両立を図りつつ、技術的に分別容易かつリユース可能又はリサイクル可能なものとするを旨目指します。（それが難しい場合にも、熱回収可能性を確実に担保することを旨目指します。）

2030年までに、プラスチック製容器包装の6割をリユース又はリサイクルするよう、国民各界各層との連携協働により実現を旨目指します。**2035年までに、すべての使用済みプラスチックをリユース又はリサイクル、それが技術的経済的な観点等から難しい場合には熱回収も含め100%有効利用**するよう国民各界各層との連携協働により実現を旨目指します。

再生利用・ バイオマス プラスチック

適用可能性を勘案した上で、政府、地方自治体はじめ国民各界各層の理解と連携協働の促進により、**2030年までに、プラスチックの再生利用(再生素材の利用)を倍増**するよう目指します。

導入可能性を高めつつ、国民各界各層の理解と連携協働の促進により、**2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限（約200万ト）導入**するよう目指します。

関連省庁・団体との連携

関連省庁・団体の活動

エピコの参加状況

環境省

- **プラスチック資源循環戦略**
…2019年6月のG20で、日本の「プラスチック資源循環戦略」をアピール
- **プラスチック・スマート**
…“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、国内外に発信

- 業界団体として小委員会に参加
- キャンペーンHPにて「トレーtoトレー」「ボトルtoトレー」の取組を掲載

経済産業省

- **クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス**
…廃棄物の適正管理、プラスチック製品の3Rの取組など海洋プラスチック問題の解決に向けたイノベーションを推進する企業連合

- 技術部会 副部長会社としてアライアンスに参加

農林水産省

- **プラスチック資源循環アクション宣言**
…食品産業の業界団体・企業から、自主的取り組みを募集

- 農林水産省HPにて「リサイクル」「リデュース」「啓発活動」の取組を掲載

日本経済団体連合会

- **SDGsに資するプラスチック関連取組事例集**
…プラスチックの資源循環をより一層推進するとともに海洋プラスチックごみ問題に貢献する観点から、企業・団体による取組事例を収集

- 日本経済団体連合会HPにて「リサイクル」「リデュース」「啓発活動」の取組を掲載

イニシアティブ

- **気候変動イニシアティブ** (Japan Climate Initiative)
…脱炭素化をめざす世界の最前線に日本から参加することを宣言し、気候変動対策に積極的に取り組む団体のネットワーク

- 設立時より参加表明

最新鋭の **生産** **物流** **リサイクル** をご覧いただけます

